令和１年度

事　業　報　告　書

◆◇　目　次　◇◆

社会福祉法人　中山梅寿会 1
指定介護老人福祉施設　なかやま幸梅園..... 9
指定短期入所生活介護事業所　なかやま幸梅園..... 18
総合福祉施設　なかやま幸梅園　厨房..... 23
ケアハウス　なかやま幸梅園 26
指定通所介護事業所　なかやま幸梅園..... 36
指定通所介護（介護予防）事業所　なかやま幸梅園..... 41
指定居宅介護支援事業所　なかやま幸梅園..... 48
在宅介護支援センター　なかやま幸梅園..... 54
指定通所介護事業所　佐礼谷 65
指定通所介護（介護予防）事業所　佐礼谷..... 69
指定通所介護事業所　野中 76
指定通所介護（介護予防）事業所　野中..... 81
短期入所生活介護事業所　野中 88
短期入所生活介護（介護予防）事業所　野中..... 93
地域活動支援センター　くりのみ 99
指定相談支援事業所　　くりのみ 104

社会福祉法人　中山梅寿会

社会福祉法人　中山梅寿会

【基本方針】

迅速かつ適切な事業運営に取り組み、安定した経営を行うと共に、地域から求められたニーズを真摯に受け止め、可能な限り対処し事業全般に切れ目のない連携を行う。

利用者本位の安心・安全に心掛け満足度の高いサービスを提供し、住み慣れた地域で暮らせる支援を行い、信頼と笑顔あふれる「日本一あったかいホームづくり」を目指す。

【具体的取り組み】

（１） 佐礼谷事業所における移転後の運営をスムーズにする。

（２） 各事業所のサービス内容を見直し、利用者満足度を高める取り組みを行い、利用者増加に繋げ経営の安定を図る。

（３） 役員の運営委員会等への継続参加により、理事会と事業現場との連携強化を図る。

（４） 地域から「なにを必要」とされているのか情報収集を行い、行政との連携を図り地域福祉の推進及び公益的取り組みを行う。

（５） 利用者に対し人権尊重を基本に、サービスの質の向上を図る。

（６） 人材確保のために、各レベルに合わせた教育システムの検討を行い、働きながら介護技術及び知識を習得し、やり甲斐のある職場づくりに取り組む。

（７） 法人全体がコンプライアンスの徹底を図り、健全な社会福祉法人を継続していく。

（８） 地域防災組織との連携を図りつつ各事業所の災害対策を強化する。

【総合評価】

達成度(%)　　85.0%

＜評価＞

① 85%

混乱もなく新事業所へ移転できたが、利用者数では 3,383 人、昨年比較で△9.4%(351 名)減少した。

② 70%

主たる介護保険全体の利用者数では 30,963 人、昨年比較で△2.2%(697 名)減少したため、経営にも影響があった。

③ 100%

月二回の運営会議の際には、必ず理事長の参加があり、情報の早期共有ができたことで現場との連携も図れ、比較的スムーズな運営に繋げることができた。

④ 85%

指定管理事業の中では、上期９月での終了事業(高齢者共同住居)があった。また、移動・変更事業(中山老人憩の家)については地域住民から情報収集を行い進めていくことが概ねできた。

⑤ 85%

重大な苦情等はなかったが、更なる向上心を持ち次年度にも繋げる。

⑥ 70%

移乗リフト等の介護機器使用における知識・技術習得には、大きな成果が感じられた。引き続き移動・移乗用具を使用することで、介護労力を軽減し、介護者がゆとりある心を持って、利用者の安心・安全に配慮しながら介護を行うことができるよう改善を進める。同時に職場環境の向上と人材確保に繋げる。

⑦ 100%

今年度も達成しているが、継続的使命として次年度にも繋げる。

⑧ 85%

幸梅園では、伊予市と合同での大規模訓練も実施でき、各事業においても活動及び訓練を概ね実施できた。

1. 各委員会活動

令和1年度

委員会名	主な活動内容	年回数
【ナース会】 ・感染症・褥瘡対策	■感染症の予防と発生時の対応に関する取り組み ■褥瘡の予防と発生時の対応に関する取り組み	12
【相談員会】 ・事故防止・身体拘束 ・車両委員 ・相談員	■身体拘束廃止に関する取り組み ■事故の予防と発生時の対応に関する取り組み ■車両の安全運行及び車両管理 ■行事計画・リスク管理・各事業所との連携	12
【生活支援委員会】 ・ターミナル委員・入浴委員 ・ケアプラン委員	■特養入居者のケアプラン業務運営 ■特養入居者の看取りに関する取り組み等 ■入浴環境の改善・入浴用品の見直し	12
【リハビリ委員会】	■生活援助に向けた環境整備とリハビリ	4
【排泄委員会】	■特養入居者の排泄の見直し・排泄用品の見直し	1
【食事委員会】	■入居・利用者の食事形態の見直し及び環境整備	6
【広報委員会】	■年4回の広報誌の作成運営	5
【研修委員会】	■特養における施設内外の研修の立案・実施	3
【接遇委員会】	■職員の質の向上に向けた取り組み	2

【職員会】	法人・施設方針の確認、研修や各委員会報告等	12
【運営会議】	施設運営に関する問題解決の取り組み	24
【安全衛生委員会】	安全衛生に関わる内容	12
【防災委員会】	防災対策等に関わる内容	12
【特養会】	特養における諸問題の解決に向けた取り組み	12
【パート会】	職員間の連携と調整	1
【医療安全】	各事業所の連携・勉強会の立案実施及び医療安全	12
【厨房部会】	調理における諸問題の改善に向けた取り組み	4

2. ボランティア状況（定期）

令和1年度

	クラブ等名	ボランティア	年間回数
月/1回	フラワーアレンジメント	中塚道子	12回
月/3回	音楽クラブ	一色康子	36回
月/2回	書道クラブ	西山一幸・西山和子	24回
月/3回	シーツ交換ボランティア	町内協力者 40名	43回

3. ボランティア状況（不定期）

令和1年度

日	ボランティアグループ名	内　　容
5/12	椿の会	演芸会
6/15	立川神楽保存会	神楽演舞
6/16	竹内様	演芸会
7/28	特養家族会	施設清掃、草刈他
8/1	中山中学校	盆踊り(踊り練習・看板作り)
8/2	中山中学校	盆踊り(会場準備)
8/3	中山中学校(生徒会)	盆踊り(準備・運営協力)
	愛媛よさこい暁	盆踊り(演芸披露)
	SVC	盆踊り(演芸披露)
	峠のOBAJIN太鼓	盆踊り(太鼓演奏)
	定期ボランティア多数	盆踊り(着付け・化粧・利用者付き添い)
	交通安全協会中山支部	盆踊り(交通整理)
	民生児童委員	盆踊り(準備・運営)
	玉井酒店	盆踊り(運営)
	更生保護女性の会・あい愛ライフ	盆踊り(利用者付き添い)
	ポケット	盆踊り(運営)
	くりのみ会・ほほえみ会	盆踊り(運営)
	特養家族会	盆踊り(運営)
	レインボー	盆踊り(運営)
	伊予市社協中山事務所	盆踊り(運営)
	おっとっと一座	盆踊り(運営)
8/4	中山中学校	盆踊り(片付け)
8/16	中山仏教会	合同慰霊祭
	ジェイエイえひめ中央　ルミエール伊予	合同慰霊祭
8/29	中山地区老人クラブ会員約20名	中山地区老人クラブ会員による演芸他交流会
8/30	こどもプラス　交流会	伊予地区障害児童との交流
9/21	中山地区建築組合	樋掃除他
9/15	縁歌塾・中山藤間会	敬老会演芸「カラオケ」出演
10/20	泉町	利用者との交流(神輿)
11/1	高本博美・玉井みひと・上坂定子 ・一色康子	文化祭 (野点・ふれあい広場)
11/2	宮田昭典・井川一郎・中塚道子 大浦博子・岡井八重子	文化祭(フリーマーケット・フラワーアレンジメント 無人販売・喫茶)
12/19	中山地区民生児童委員	施設清掃ボランティア
12/22	特養:家族会有志	施設内清掃活動
12/22	おっとっと一座・大正琴演奏グループ「スレンズ」	クリスマス・忘年会での演芸
1/2	三島神社	歳旦祭

4. 園内研修

令和1年度

月日	研修内容	講師名
4/23	法令順守・身体拘束に関する勉強会	窪田施設長
6/19	感染症(食中毒予防他)勉強会	小川管理栄養士
7/24	事故防止勉強会	事故防止委員会
8～9月	褥瘡勉強会(各事業所)	褥瘡委員会
9月	感染症(インフルエンザ)勉強会(各事業所)	感染症対策委員会
10/9	救急救命講習会(第1回)	消防署・救命士
10/23	事故防止勉強会	あいおい損保
10/24	救急救命講習会(第2回)	消防署・救命士
11/21	認知症勉強会	森平相談支援専門員
1/22	身体拘束に関する勉強会	権田施設長
2/26	褥瘡予防勉強会	㈱曽我商会

5. 園外研修　　別紙１

6. 施設見学

令和1年度

月日	団体名	
7/23	加戸病院	1名
8/23	神南荘	4名

7. 施設実習

令和1年度

月日	団体名	人数
5/13～6/14	四国中央医療福祉総合学院社会福祉士実習	1
10月～11月	河原学園(歯科衛生士)	36
10/1～10/3	愛大看護学科施設実習	5
10/29～10/31	愛大看護学科施設実習	5
11/26～11/28	愛大看護学科施設実習	6
12/9	中山小学校(4年生)交流会	10
1月～2月	介護支援専門員見学実習	1

8. 行事

令和1年度

	行事
4月	花見
5月	運動会・母の日会・演芸会
6月	父の日会・お神楽・演芸会・焼肉パーティ・フレンドリー祭り
7月	風船バレーボール大会・わくわくバイキング
8月	盆踊り大会・合同慰霊祭・そうめん流し・老人クラブ交流会
9月	しあわせの集い・ぶどう狩り・敬老会
10月	観月祭・地方祭・餅つき
11月	文化祭(野点・演芸会・バザー)・大規模避難訓練・ボランティア謝恩会
12月	シェイクアウト(地震防災)訓練・忘年会・クリスマス会・しめ縄作り・餅つき
1月	歳旦祭・初詣・新年会
2月	節分「豆まき」・わくわくバイキング
3月	避難訓練

9. その他

令和1年度

月日	主 な 内 容
4/2	害虫駆除
4/15	入所判定会
5/8	害虫駆除
6/3	監事監査
6/4	害虫駆除
6/10	第1回理事会
6/25	レジオネラ菌検査
6/26	第2回理事会・第1回評議員会
6/27	カーペット清掃
7/2	害虫駆除
7/11	全館掃除
7/15	入所判定会
7/18	消防設備点検
7/21	循環配管除菌洗浄
8/2	害虫駆除
9/3	害虫駆除
10/8	害虫駆除
10/15	入所判定会
11/8	害虫駆除
11/13	避難通報訓練
11/27	第3回理事会
12/6	害虫駆除
12/13	全館掃除
12/17	地震防災訓練
12/18	カーペット清掃
12/20	貯水槽清掃
1/9	害虫駆除
1/14	入所判定会
1/16	消防設備点検
1/22	レジオネラ菌検査
2/10	害虫駆除
3/6	害虫駆除
3/9	地下タンク漏洩検査
3/15	受水槽清掃
3/18	第4回理事会
3/26	第2回評議員会
3/31	避難通報訓練

別紙1

研　修　会　参　加　記　録

令和1年度

No.	日　程	研　修　会　名	開催地	参　加　者　氏　名	備考
1	4/26	愛媛県中小企業同友会　定時総会	松山市	高本英昭	
2	5/16	介護国際協同組合　外国人セミナー	松山市	窪田里美	
3	5/17	愛媛県老施協　施設長会	松山市	窪田里美	
4	5/23	中予老施協　施設長会	松山市	窪田里美	
5	5/24	スチームコンベンションを使用しての調理方法等研修	松山市	小川千明・金山修也 上田佳菜・吉田元太	
6	5/28	伊予市介護相談員派遣事業研修会	伊予市	横山裕輝	
7	5/29	愛媛県老人福祉施設大会	松山市	窪田里美・酒井友子・岡村奈美子	
8	6/7	令和元年度全国安全週間実施要綱等説明会	松山市	権田哲郎	
9	6/8	愛媛県精神障害者地域生活支援協議会　総会	松山市	森平澄子	
10	6/11	生活課題解決プロジェクト委員会	松山市	高本英昭・武智正輝	
11	6/12	防災に関する社会福祉施設管理者向け研修会	松山市	今井智之	
12	6/19	令和元年度松山圏域地域包括ケア推進のための研修	松山市	滝下八千代	
13	6/20　～　6/21	愛媛県強度行動障がい支援者養成研修(実践研修)	大洲市	矢野雄大	
14	6/21	自立支援の介護を学ぼう	松山市	木戸広美	
15	6/22	地域包括ケアシステム研修	松山市	武田あけみ	
16	6/29	2019年度　介護福祉実習報告会	松山市	上岡滋	
17	8/5	障がい者雇用セミナー	松山市	矢野雄大	
18	8/28	訪問系サービス事業所向け防災研修会	松山市	森平澄子	
19	8/29	愛媛県老施協　防災に関する研究・研修会	松山市	権田哲郎・一木達矢	
20	9/17	特別支援学校企業向け学校公開セミナー	松山市	権田哲郎	
21	9/17	デイサービスセンター職員研修会	松山市	上岡稔恵・城亜由美	
22	9/21	愛媛県障がい者虐待防止権利擁護セミナー	松山市	森平澄子	
23	9/22	愛媛県障がい者虐待防止権利擁護セミナー	松山市	矢野雄大	
24	9/26	中予老施協　事務職員等研修会	松山市	権田哲郎	
25	10/8	令和元年度　安全運転管理者講習	松前町	一木達矢	
26	10/17	65歳超雇用促進セミナー	松山市	権田哲郎	
27	10/18	介護労働者雇用管理責任者講習	松山市	権田哲郎	
28	10/24	愛媛県社会福祉大会	松山市	高本英昭	
29	10/29　～　10/30	全国老施協　研究会議	松山市	権田哲郎・横山裕輝・横山裕子 武田あけみ・一木達矢	
30	10/30　～　11/1	愛媛県障がい者相談支援従事者現任研修	松山市	矢野雄大	
31	11/1	麻薬・覚醒剤乱用防止運動愛媛大会	松山市	高本英昭	
32	11/20	給与大臣年末調整セミナー	松山市	亀岡幸子	
33	11/22	令和元年分年末調整について	松山市	権田哲郎	

No.	日　程	研　修　会　名	開催地	参　加　者　氏　名	備考
34	11/25	中予保健所介護予防従事者研修会	松山市	滝下八千代	
35	11/26	指定障害福祉サービス事業所に対する集団指導	松山市	矢野雄大	
36	11/27	令和元年度特定給食施設等関係者研修会	松山市	小川千明	
37	11/28	中小企業同友会　第8回経営フォーラム	松山市	高本英昭・権田哲郎	
38	11/29	協働担い手研修	今治市	高本英昭・武智正輝	
39	12/1	生活習慣病予防のための食生活セミナー	松山市	小川千明	
40	12/2	認知症セミナー「心も身体も頭も元気に」	伊予市	武本知己	
41	12/2	介護支援専門員実務研修見学実習指導者等研修会	松山市	滝下八千代	
42	12/5	愛媛県老施協　施設長特別研修会	松山市	権田哲郎	
43	12/7	介護塾in愛媛	松山市	正岡美香・武田あけみ	
44	12/9	認知症セミナー「食事も私も若返り」	伊予市	小川千明・武智恵子	
45	12/18	社会福祉法人セミナー	松山市	権田哲郎	
46	1/12	認知症フォーラムinいよし	伊予市	武智恵子	
47	1/15	社会福祉法人施設長等研修会	松山市	権田哲郎	
48	1/24	施設ケアマネジメント研修会	松山市	一木達矢・松下佐嘉恵・上岡滋	
49	1/26	伊予市高齢者福祉施設救命講習会	伊予市	酒井友子	
50	1/28	就労パスポート活用セミナー	松山市	権田哲郎・矢野雄大	
51	1/29	高齢者施設等における感染症(HIV感染症等)に関する研修会	松山市	金山正江	
52	1/31	社会福祉施設における安全衛生研修会	松山市	一木達矢	
53	2/1	中予保健所難病地域ケア会議	松山市	正岡美香	
54	2/1	愛媛県障害者地域生活支援協議会	松山市	矢野雄大	
55	2/12	令和元年度　退職共済実務研修会	松山市	一木達矢	
56	2/18	社会福祉法人監査研修会	松山市	一木達矢	
57	2/18	伊予市介護支援専門員連絡会	伊予市	横山裕輝・松下佐嘉恵・滝下八千代 横山裕子・木戸広美・武田あけみ・正岡美香	
58	2/19	デイサービスセンター戦略会議	松山市	森田孝志	
59	2/19	令和元年度愛媛県精神障がい者家族研修	松山市	森平澄子	
60	2/20	食事摂取基準　2020セミナー	伊予市	小川千明	
61	2/21	軽費・ケアハウス戦略会議	松山市	森川大	

指定介護老人福祉施設　なかやま幸梅園

【基本方針】

利用者の尊厳と自己決定を尊重したサービスを提供すると共に、安全と安心の中で心穏やかに暮らせる生活を援助する。

【具体的取り組み】

利用者個々の今まで培われてきた生活様式や生活習慣の把握に努め、個性や心身の状況に応じてその人らしい生活を支援する。また、生活場面においては、家庭的な環境の中で馴染みの人間関係を構築、入居生活を安全、安楽に過ごせるような環境整備を提供し、利用者主体の個別ケアに努めると共に、居室内でのプライバシーを確保する。

1.　利用者のニーズに沿った個別ケアと生活支援の実践

（1）食　事　（厨房との連携）

① 食べやすく、美味しい食事の提供

② 栄養ケアマネジメントの実施

③ 衛生管理の徹底等

（2）排　泄

① 利用者個々に合った心地よい、根拠のある排泄ケアを提供するために、事例フォーマットを活用しながら排泄用品の提供を行うと共に、排泄行為に関する援助を適切に行う。

② プライバシー及び、清潔を確保しながら利用者が安心して排泄できる環境作りに努める。

（3）入　浴

① 利用者の希望や状態を定期的に見直し、個々に合った入浴体制を整える。

② 利用者の状況に応じた入浴ケアの知識や技術を身に付け、利用者が安心して入浴できるように努める。

（4）レクリエーション・リハビリ

① 利用者の希望を適宜アセスメントしながら、個別機能訓練及び外出やレクリエーション等を実施し、また、定期的に評価を行う。

② 離床の機会を増やすことを目指して、リクライニング車椅子の整備や、適したリハビリ用具・介護機器を提供し、生活しやすい環境を整える。

③介護する側、受ける側が双方に安全で安心な移乗、移動が出来るよう、様々な機器や用具を適切に活用する。

（5）ケアプラン（介護サービス計画）

① 生活歴を基に個人や家族の思いや喜び、心地よさ、生きがい等を追求するため、センター方式を使用し、ケアプランを立案実施する。

② 定期的なモニタリング（評価）を実施し、より利用者のニーズに沿ったケアプランの実践に努める。

（６）環境整備

設備及び、器具類等の点検を定期的に実施し、必要な補修、修繕等を行うと共に、利用者個々の状態に合わせて居心地の良い快適な環境の整備を行う。

2. リスク管理

利用者が安全に過ごせるよう、事故予防に努め、事故発生時の適切な対応及び再発防止を行う。

（１）介護用品や備品、危険箇所の点検を定期的に行い、安全かつ快適に過ごすための介護機器の検討と環境整備を行う。

（２）利用者の情報収集を十分に行い、予測できる事故について家族と共に理解し未然に防ぐ工夫をする。

（３）ヒヤリハット活動を充実させることにより事故予防に繋げる。

（４）事故発生時は、マニュアルに沿った迅速かつ適切な対応を行い、原因を多面的に検証し、再発防止に努める。

（５）事故防止対策実施後の評価を行い、再発予防、防止に努める。

3. 防災対策

火災をはじめ、地震、風水害等災害の発生に備え、緊急時における利用者の生命と安全を確保するため、自主防災活動及び、地域防災組織等との連携強化を図る。

（１）火災害等の発生に備えて、状況に応じて迅速かつ、適切な避難誘導が行えるよう、定期的に避難訓練等を実施する。

（２）防災設備については、緊急時に十分機能するよう、日頃から定期的に点検整備を実施する。

（３）地震及び、風水害等発生時対応マニュアルに沿って、自然災害発生時における避難、救護体制の構築を図る。

（４）地域総合防災訓練への参加及び、消防機関、地域防災組織等との連携により地域ぐるみで自主防災機能の強化を図る。

4. 職員教育

質の高いサービスを提供するために、自己研鑽に努め、資質の向上を図る。

（１）園内外で開催される各種研修・勉強会等に参加し、専門的な知識、技術を修

得し、業務の適正化及び、効率化に努める。

（２）挨拶、言葉遣い、身だしなみ等、職員としての基本的なマナーを身につけ、また、コミュニケーション能力を高めて、サービスの質の向上を目指す。

5. 医療的サポート

利用者の健康に対する不安を取り除き、安心して過ごせるよう、看護・介護が一体となって、本人及び家族、医療機関等と連携を図り、健康管理を進める。

（１）健康診断

年１回実施し、その結果を踏まえて必要時医療に繋げる。

（２）感染症対策

勉強会や啓発活動などの年間実施計画表を立案・実施し、予防に努める。また、感染症発生時は、マニュアルに沿った対応を行う。園外研修に参加し、知識の向上を図る。

（３）健康管理

日常的な状態の把握、自己健康管理への助言、疾病の早期発見及び事故防止と事故発生時の適切な対応を行う。

（４）ターミナルケア（終末ケア）

人生の最期を当施設で暮らすことを望まれた場合、本人や家族の希望を確認しながら嘱託医と連携し､マニュアルに沿ったターミナルケアを行う｡また、穏やかで安らぎのある日々を提供できるよう支援する。

（５）褥瘡対策

褥瘡対策チームにて、褥瘡のリスク管理と褥瘡発生時の対応を適切に行う。

【重点目標】

① ノーリフティングケア導入に関連する、介護用リフト機器をはじめ、その他の用具類（スライディングボード・シート・移乗用ベルト）の適切な取り扱いに向けての技術、知識の向上及び、安全運用に向けての定期的な評価を行う。

② 入浴体制の変更に伴う､問題点の整理及び､引き続き排泄や外出支援等､個別ケアの充実を図ると共に、併せて不適切ケアの解消に取り組み、サービスの向上に繋げる。

③ 骨折等の重大事故に関する予防・防止に向けた安全対策を強化すると共に、各所の安全点検やヒヤリハット報告の定期的な検証及び、対策を講じることにより、利用者、スタッフ双方が安心、安全な生活環境の実現に取り組む。

④ 家族会と連携しながら、施設サービス全般に関する評価及び、家族との交流の機会を確保し、本来の家族会活動の推進及び、機能強化を目指す。

⑤ 地域内の福祉ニーズを探りながら積極的に地域貢献活動に取り組む。

【総合評価】

達成度(%)　　75.0%

＜評価＞

① 85%

介護リフトの運用状況については使用中の事故等は発生しておらず、腰痛予防及び、業務効率化の面でも一定の効果が得られており、今後も引き続き技術の向上、安全運用を目指す。

② 80%

入浴体制に関する評価としては介護相談員の聞き取りによると「以前よりゆっくりと入浴できて良い」との意見が利用者から聞かれたとの報告がある一方、外出支援や、不適切ケアの解消については更なる取り組み強化が必要である。

③ 65%

事故予防、防止について発生件数自体は減少傾向であるが、ヒヤリハットの定期的な検討、評価等はできておらず、今後も再発防止及び、重大事故予防に向けての対策強化が重要である。

④ 75%

例年実施している施設見学や行事実施時の参加、運営協力等の活動は定着しつつある一方、参加家族の固定化や、縮小傾向については今後の課題である。

⑤ 70%

地域貢献活動については１イベントのみの実施に留まったことから、地域内での様々な行事、イベント等をはじめ、地区や集落レベルの活動も模索していく。

指定介護老人福祉施設(定員　30名)

１．市町村別

令和2年3月31日

出 身 地	男　　性	女　　性	合　　計
伊予市(中山町)	6	18	24
伊予市(双海町)		1	1
伊予市(旧伊予)	1	3	4
合　　計	7	22	29

２．年齢構成

令和2年3月31日

年 齢	男性	女性	合計
～　64歳			
65　～　74歳	1	1	2
75　～　79歳		1	1
80　～　84歳	2	2	4
85　～　89歳	2	8	10
90　～　94歳	2	6	8
95　～　99歳		3	3
100歳～		1	1
合　　計	7	22	29

平均年齢

男　　性	84.4歳
女　　性	88.7歳
全　　体	87.7歳

３．在籍期間

令和2年3月31日

在 籍 期 間	男性	女性	合計
1年以内	4	7	11
1年以上～2年未満		3	3
2年以上～3年未満	1	3	4
3年以上～4年未満	1	2	3
4年以上～5年未満		1	1
5年以上～6年未満		1	1
6年以上～7年未満			
7年以上～8年未満		1	1
8年以上～9年未満			
9年以上～	1	4	5
合　計	7	22	29

４．身体状況

障害高齢者の日常生活自立度(寝たきり度)

令和2年3月31日

	男性	女性	合計
正常			
J1			
J2		1	1
A1	2	1	3
A2		2	2
B1	1	4	5
B2	2	9	11
C1	1	2	3
C2	1	3	4
合計	7	22	29

※「障害高齢者の日常生活自立度(寝たきり度)判定基準」による

認知症高齢者の日常生活自立度

令和2年3月31日

	男性	女性	合計
正常			
Ⅰ		2	2
Ⅱa	1	2	3
Ⅱb		4	4
Ⅲa	4	5	9
Ⅲb		1	1
Ⅳ	2	7	9
M		1	1
合計	7	22	29

※「認知症高齢者の日常生活自立度判定基準」による

５．要介護度の推移

令和2年3月31日

	男性	女性	合計
要介護1			
要介護2	1		1
要介護3		4	4
要介護4	6	13	19
要介護5		5	5
合　計	7	22	29

平成31年3月31日

	男性	女性	合計
要介護1			
要介護2	1	2	3
要介護3	1	3	4
要介護4	7	10	17
要介護5		6	6
合　計	9	21	30

平成30年3月31日

	男性	女性	合計
要介護1		2	2
要介護2		1	1
要介護3	1	2	3
要介護4	6	8	14
要介護5	2	8	10
合　計	9	21	30

平成29年3月31日

	男性	女性	合計
要介護1		1	1
要介護2		1	1
要介護3	1	6	7
要介護4	4	5	9
要介護5	1	10	11
合　計	6	23	29

	平成29年度末	平成30年度末	平成31年度末	令和元年度末
要介護1	1	2		
要介護2	1	1	3	1
要介護3	7	3	4	4
要介護4	9	14	17	19
要介護5	11	10	6	5
合　計	29	30	30	29
平　均	3.97	3.96	3.87	3.96

６．入退居状況

令和1年度

	在籍者数		入退居者				
	平均入居者数	のべ人数	在籍者数	入居者	退居者		
					施設死亡	病院死亡	その他
	人	人	人	人	人	人	人
4月	29.8	894	30	1	1		
5月	29.8	923	30	1	1		
6月	30.0	900	31				
7月	29.8	924	30	1	1		
8月	29.3	908	32	3	2	1	
9月	30.0	900	30				
10月	30.0	930	32				
11月	29.6	889	30	1	2		
12月	29.6	919	31	2	1		
1月	28.0	869	30	2	1	2	
2月	29.9	867	30	1			
3月	29.1	901	31	1	2		
合計		10,824		13	11	3	

稼働率

令和　1年度	98.58%
平成 30年度	110.06%
平成 29年度	99.60%
平成 28年度	100.30%

７．入院状況

令和1年度

	入院日	退院日	病　　名	日数	入院場所	備考
1	6月10日	7月9日	リハビリ調整	28	伊予病院	
2	7月9日	7月26日	肺炎	18	南松山病院	
3	11月3日	1月10日	脳梗塞	68	愛媛医療センター	退居
4	12月23日	1月27日	髄膜腫	15	市立大洲病院	
5	2月18日	2月25日	腎機能低下	8	市立大洲病院	
				137		

入院延べ日数

令和　1年度	137日
平成 30年度	44日
平成 29年度	44日
平成 28年度	67日

８．受診状況

令和1年度

	総数	内科		外科		精神科		整形		皮膚科		泌尿器科		眼科		歯科		耳鼻科		婦人科		救急
		内	外	内	外	内	外	内	外	内	外	内	外	内	外	内	外	内	外	内	外	
4月	121	88	2			11										15	5					
5月	106	79	1			12					2					10	2					
6月	105	76	1		3	9					1				1	14						
7月	121	87	4			10					2					16	2					
8月	90	52	2		1	12					1		1			20	1					
9月	98	66	1			12					1		2		1	14	1					
10月	107	70	2			10					4		1			18	2					
11月	119	87	2			9										21						
12月	115	74	1			13					1				1	21	4					
1月	100	68	1			13										18						
2月	93	58			1	12							1			20	1					
3月	104	84				10										9	1					
計	1,279	906		5		133				12		5		3		215						

９．クラブ活動・レク活動

令和1年度

曜日	クラブ・レクリエーション活動
日	ビデオ鑑賞他
月	フラワーアレンジメント他
火	ふれあい時間（爪切り・耳掃除）
水	カラオケ他
木	スポーツ他
金	音 楽 クラブ
土	書 道 ・ 喫 茶

10．行事

令和1年度

4月	花見
5月	運動会・母の日会・演芸会
6月	父の日会・演芸会・焼肉パーティ
7月	風船バレーボール大会・わくわくバイキング
8月	盆踊り大会・合同慰霊祭・そうめん流し・老人クラブ交流会
9月	ぶどう狩り・敬老会
10月	観月祭・地方祭・餅つき
11月	文化祭（野点・演芸会・バザー）・大規模避難訓練・ボランティア謝恩会
12月	シェイクアウト（地震防災）訓練・忘年会・クリスマス会・しめ縄作り・餅つき
1月	歳旦祭・初詣・新年会
2月	節分「豆まき」・わくわくバイキング
3月	避難訓練

11.事故状況　（医療機関受診を伴う事故）

	月日	性別	事故内容	場所	事故状況	対応・処置等
1	4月9日	女	バルーンカテーテル抜去	居室	夕食後、居室誘導する際、失禁あり。確認するとバルーンカテーテル抜去しているのを発見し、看護師に報告する	看護師から主治医へ連絡し、Drの指示によりバルーンカテーテル挿入する。その後、様子観察し、特に異常なし。その旨、家族にも報告する。
2	5月5日	女	バルーンカテーテル抜去	居室	22:40訪室時にハルンバッグ内に血液の塊があり、排尿がなかった為、陰部確認すると排便と共に、風船部分が抜け出ているのを発見した。	看護師報告し、パット内の尿量測定の指示あり。併せて主治医連絡し、Drの指示によりバルーンカテーテル挿入する。その後、様子観察し、特に異常なし。その旨、家族にも報告する。
3	7月24日	男	誤嚥	ホール	ホールにて車椅子で過ごしていた際、頭部後傾になり、顔面蒼白で脱力感及び、流涎あり。両手チアノーゼ見られ、意識消失状態を発見する。	看護師報告。直ちに居室に移動し座位姿勢にて背部タッピングにてスイカの欠片を排出。ハイムリック及び、吸引機使用して更にスイカの欠片を除去。主治医報告し、往診。3日間の絶食指示あり、併せて家族連絡する。
4	1月27日	女	転倒	ホール	ホール中央トイレ前にて顔面から前のめりに転倒する。顔面鼻下に擦過傷あり、併せて口腔内前歯残歯4本付け根より出血を確認する。	直ちに高橋Drに報告し、往診止血継続の指示にて対応。併せて笹田Drにも報告する。その後、家族にも連絡し経過報告を行う。

事故発生状況　2019　介護老人福祉施設 なかやま幸梅園

発生場所＼発生内容	受診の有無	転倒	転落	ずり落ち	衝突	誤嚥	誤薬	異食	離園	表皮剥離	利用者同士のトラブル	その他	合計
ホール	有	1				1							2
	無	6		2		2	3					1	14
居室	有											2	2
	無	3		5	1					1		1	11
食堂	有												
	無	1										1	2
トイレ	有												
	無	1											1
浴室	有												
	無	1										2	3
デイルーム（娯楽室）	有												
	無												
施設外	有												
	無												
その他	有												
	無			1									1
小計	有	1				1						2	4
	無	12		8	1	2	3			1		5	32
合計		13		8	1	3	3			1		7	36

（評価）

発生状況としては軽微な転倒、ずり落ち等の事故が多くを占めるが、一時期、集中してバルーンカテーテル抜去事故が発生しており、ケアの手順や安全確認等、スタッフ個々の適切な介助実施に対する意識や安全確認、更には予防対策に関する評価、検証の体制強化が必要である。

ヒヤリハット　件数　26件

12.苦情発生の状況

苦情発生　なし

指定短期入所生活介護事業所　なかやま幸梅園

【基本方針】

利用者及び、その家族のニーズや課題の把握に努め、利用者の有する能力に応じた日常生活を営むことができるよう、サービスを提供する。また、各関連機関との連携を図りながら、利用者の心身機能の維持向上と家族の身体的・精神的負担を軽減することにより、在宅生活が継続できるよう支援する。

【具体的取り組み】

1. 個別援助計画

利用者の心身状況及び、生活課題等のニーズを把握すると共に、各関係機関等と連携を図りながら、利用者及び、家族の希望に沿ったサービスを提供する。

（1）初回訪問時やサービス担当者会議等にて、利用者及び、家族の希望と、利用者の生活全般についてその状態を十分に把握する。

（2）サービスの提供にあたり、居宅サービス計画に基づいたケアプラン（短期入所生活介護計画）を立案し、事前に利用者及び、家族に説明し、同意を得る。

（3）定期的なモニタリング(評価)を実施し、より利用者のニーズに沿ったケアプランの実践に努める。

2. 機能訓練

利用者の自立を支援し、機能の維持向上を図るため、機能訓練を計画的かつ、継続的に実施する。

（1）利用者の心身状況及び生活リズムに応じて、日常生活に必要な機能を維持するためのリハビリを行う。

（2）利用者個々の生活史を考慮したレクリエーション活動を提供すると共に、経過や効果等について検証し、在宅生活や関連事業所でのケアに繋げる。

3. 健康管理

生活環境の変化による体調不良、混乱を防止するために、必要な健康管理体制を整え、適切な対応を行う。

（1）サービスの利用毎に、利用者の心身状況を確認し、本人及び家族、医療機関と連携を図り、健康管理を行う。

（2）感染症対策については、感染症マニュアルに沿って適切に対応し、予防に努め、発生時には蔓延、拡大の防止を図る。

4. 環境整備

生活場所の変化による混乱が生じる可能性があることを説明し、情報収集することにより、できる限り在宅生活に近い環境の整備を行う。また、利用に際しては、事業所での居室環境について説明を行い、同意を得る。

5. リスク管理

利用者が安全に過ごせるよう、事故予防に努め、事故発生時の適切な対応及び再発防止を行う。

（１）介護用品や備品、危険箇所の点検を定期的に行い、安全かつ快適に過ごすための介護機器の検討と環境整備を行う。

（２）利用者の情報収集を十分に行い、予測できる事故について家族と共に理解し未然に防ぐ工夫をする。

（３）ヒヤリハット活動を充実させることにより事故予防に繋げる。

（４）事故発生時は、マニュアルに沿った迅速かつ適切な対応を行い、原因を多面的に検証し、再発防止に努める。

6. 防災対策

火災をはじめ、地震、風水害等災害の発生に備え、緊急時における利用者の生命と安全を確保するため、自主防災活動及び、地域防災組織との連携強化を図る。

（１）火災害等の発生に備えて、状況に応じて迅速かつ、適切な避難誘導が行えるよう、定期的に避難訓練等を実施する。

（２）防災設備については、緊急時に十分機能するよう、日頃から定期的に点検整備を実施する。

（３）地震及び、風水害等発生時対応マニュアルに沿って、自然災害発生時における避難、救護体制の構築を図る。

（４）地域総合防災訓練への参加及び、消防機関、地域防災組織等との連携により地域ぐるみで自主防災機能の強化を図る。

7. 職員教育

質の高いサービスを提供するために、自己研鑽に努め、資質の向上を図る。

（１）園内外で開催される各種研修・勉強会等に参加し、専門的な知識、技術を修得し、業務の適正化及び、効率化に努める。

（２）挨拶、言葉遣い、身だしなみ等、職員としての基本的なマナーを身につけると共に、職員個々のコミュニケーション能力を高め、サービスの質の向上を目指す。

8. 地域交流

地域における行事等への参加や、地区住民との交流、ボランティア等の受け入れを通じて、地域コミュニティ機能の充実を図る。

【重点目標】

① 利用者一人ひとりが安心して在宅生活を継続できるよう、引き続き家族、居宅介護支援事業所、各関係機関及び、他のサービス事業所との連携強化を図る。

② 複数のサービス事業所を利用する利用者の増加に伴い、個々の心身状態や介護方法等の情報を共有し、利用者、家族の希望に沿ったサービス提供に繋げる。

③ 医療依存度の高い利用者や、終末期、感染症の流行時季における緊急的な受け入れ等、介護ニーズの多様化に応じ、医療機関や各関係機関と連携しながら、柔軟かつ、円滑な受け入れ及び、適切なサービス提供体制の構築を図る。

④ 各種災害の発生に備えて、引き続き避難訓練の実施や地域防災組織等との連携強化に努めると共に、福祉避難所としての施設機能の充実を図り、地域高齢者の安全と生活の確保に向けて更なる体制整備に取り組む。

【総合評価】

達成度(%)　80.0%

＜評価＞

① 80%

家族、居宅介護支援事業所、各関係機関及び、他のサービス事業所と連携しながらサービス提供を行った。

② 75%

関係サービス事業所等との身体状況及び介護方法等の情報を共有しながら、利用者及び、家族の希望に沿ったサービス提供を行ったが、部分的に情報の確認漏れや事業所間での連携ミスがあった。

③ 85%

医療依存度の高い利用者や、終末期での受け入れについては医療機関や各関係機関、担当ケアマネと連携しながら概ね適切なサービス提供を行った。

④ 80%

台風接近に伴い、警報発令段階で担当ケアマネと独居や老夫婦世帯等、要救護高齢者の緊急的な受け入れを行った。今後も災害発生に備えて地域防災組織等との連携、利用者、職員の安全確保に向けた体制強化が必要である。

令和1年度　　**指定短期入所生活介護事業所 なかやま幸梅園 利用実績**

１．事業内容　区分：短期入所生活介護〔併設型〕
体制：送迎体制〔あり〕

２．開所日数　：　366日

■ 利用定員　：　10名

■ 稼働率　：　95.8%

■ サービス期間　：　平成31年4月1日～令和2年3月31日

３．利用実績

項目＼月		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
開所日数		30	31	30	31	31	30	31	30	31	31	29	31	366
利用者数		29	31	27	28	30	30	30	31	32	28	26	24	346
介護度別利用状況	要支援1													
	要支援2													
	要介護1	30	50	45	52	62	45	55	67	41	49	19	37	552
	要介護2	115	93	80	71	97	125	130	118	121	130	112	82	1,274
	要介護3	48	52	62	40	46	59	35	50	73	51	50	67	633
	要介護4	90	106	104	92	81	56	62	65	56	70	51	41	874
	要介護5	8	11	9	35	18	7	11	7	13	12	34	10	175
	合　計	291	312	300	290	304	292	293	307	304	312	266	237	3,508
	1日平均	9.7	10.1	10.0	9.4	9.8	9.7	9.5	10.2	9.8	10.1	9.2	7.6	9.6
送迎利用実績		88	87	91	69	85	86	84	89	76	66	65	40	926

4.事故状況　（医療機関受診を伴う事故）

	月日	性別	事故内容	場所	事故状況	対応・処置等
1	7月29日	女	打撲 表皮剥離	トイレ	夕食後、自力にてトイレに行き、その後、右足膝、足首外側に表皮剥離を発見する。本人に確認すると、「車椅子のフットレストに引っ掛かった」とのこと。	止血後、洗浄し、ストリップテープ4本及び、ガーゼ及び包帯にて保護する。佐礼谷診療所に連絡し、後日受診予定となる。翌朝、受診し、消毒処置及び化膿止め処方にてサービス継続利用。
2	3月8日	男	誤嚥性肺炎	居室	訪室した際、枕元に黒っぽい吐物（吐血）あり声掛けに反応なく、看護師に報告し、意識消失状態にて救急要請を行うと共に、併せて家族に連絡する。	救急要請と同時に家族連絡する。救急隊到着後に、妻、長男来園。心肺蘇生と同時にドクターヘリ要請。

事故発生状況　　2019　　短期入所生活介護事業所 なかやま幸梅園

発生場所＼発生内容	受診の有無	転倒	転落	ずり落ち	衝突	誤嚥	誤薬	異食	離園	表皮剥離	利用者同士のトラブル	その他	合計
ホール	有												
	無	1					1					2	4
居 室	有					1							1
	無	1		2									3
食 堂	有												
	無												
トイレ	有									1			1
	無	1											1
浴 室	有												
	無												
デイルーム（娯楽室）	有												
	無												
施設外	有												
	無								3				3
その他	有												
	無												
小 計	有					1				1			2
	無	3		2			1		3			2	11
合 計		3		2		1	1		3	1		2	13

（評価）

同一者による転倒、ずり落ち事故が多くを占めるが、発生件数としては大幅に減少している。また、服薬に絡むケースが数件発生しており、重大な体調変化に繋がる可能性が高いことから、今後は確認方法の改善等、看護、介護の連携強化が重要である。

ヒヤリハット件数　6件

5.苦情発生の状況

苦情発生　なし

総合福祉施設　なかやま幸梅園　厨房

【基本方針】

利用者個々の疾病、体調、身体機能等に応じた食事の提供を行い、食べる喜びを引き出し維持、向上できるよう、食事内容の工夫を心がける。

【具体的取り組み】

1.　安全で、安心な、美味しい食事の提供

（1）　食事委員会や嗜好調査などに基づき、多職種と連携し、利用者の意思を尊重しつつ、その人の嚥下機能を評価しながら食事形態（嚥下調整学会分類参考）・食事内容の見直しを行い、より美味しく・食べやすい食事が提供できるよう工夫をする。

（2）　療養食、軟菜食、ソフト食を含む、個人対応食の充実に努める。

（3）　年間計画を作成し、四季を感じられる行事食を提供する。

（4）　おやつの提供方法及び提供内容に工夫を凝らし、利用者の満足度を高める。

（5）　各事業所の調理レクリエーション・おやつ作りレクリエーションへの提案や協力を行う。

（6）　大量調理マニュアルに沿って調理を行うよう作業工程を見直し、マニュアルを作成し、衛生管理に努める。

（7）　検食者からの意見を把握し、改善が必要な場合は早急な対応を行う。

2.　栄養ケアマネジメントの実施

（1）　施設のケア計画・経口維持計画と栄養マネジメント計画を連動させ計画立案する。

（2）　多職種間で連携を深め、利用者個々の栄養状態に基づき栄養管理計画書を作成する。個々に応じた、利用者、家族の意向に基づいた低栄養改善を含む栄養管理を行う。

（3）　栄養計画書の定期的評価・見直しを行い、体調管理の維持・向上に繋げる。

（4）　利用者の経口維持、自力摂食を継続できるようサポートする。

（5）　入所者が入院した場合、入院先医療機関と連携を図り栄養管理を行う。

3.　リスク管理

（1）　大量調理マニュアルの趣旨を踏まえた衛生管理の徹底を図る。

（2）　異物混入等のヒヤリハットを防ぐための検討、取り組みを行う。

（3）　トラブル発生時の対応がスムーズに行えるようマニュアルを整備し、未然に防ぐ

工夫をする。

4. 防災対策

（１） 施設内の防災訓練に積極的に参加し、非常時の行動を身に付ける。

（２） 災害時メニューを作成し、備蓄食品の管理を行う。

（３） 常に備蓄品の必要量を満たしているよう、定期的に消費期限チェックを行い、在庫管理する。

5. 職員教育

（１） あいさつ・言葉遣い・身だしなみ等、職員としての基本的なマナーを身につけると共に、職員個々のコミュニケーション能力を高め、サービスの向上を目指す。

（２） 研修・勉強会等に参加し、専門的な知識、技術を高める。

（３） 感染予防に向けた調理方法を確立するための教育を実施する。

（４） 他部署（多職種）と連絡体制を強化し、情報を共有することにより、業務が円滑に進むよう対応する。

6. その他

（１） 食材・水道・ガス・光熱費など、コスト削減（節約）への意識向上と実施。

（２） 他事業所への出張調理を計画的に行い、他事業所との連携を強化する。

【重点目標】

① 行事食・わくわくバイキングを計画的に実施し充実を図る。
② 手作りおやつ、おやつバイキングを充実させる。
③ 食事委員会との連携強化を図りながら厨房会を定期的に開催し、厨房スタッフ全員の意識統一を図る。
④ 定期清掃計画を立案し、実施する。
⑤ 非常時、緊急時対応マニュアルの見直しを行い、イメージトレーニングと訓練を実施する。
⑥ 自然災害時に備え、利用者・職員を含む非常食のメニューに沿った備蓄品を確保する。消費期限をチェックし、在庫管理を行う。

【総合評価】

達成度(%)　　82.5%

＜評価＞

① 70%

行事食は令和1年を記念してのお祝い膳を立案し提供できた。また、季節に応じた行事食等を提供できた。

わくわくバイキングは下半期、感染症の影響で実施できなかった。

② 85%

手作りおやつは季節に応じた内容で提供することができた。

③ 70%

月一回の厨房会が開催できない月があった。しかしその場合には、朝礼・昼休み等を利用して職員間で話し合いをもち情報共有と意識統一を図った。

④ 100%

定期清掃は実行できた。

⑤ 85%

施設の防災訓練に伴ってイメージトレーニングと訓練を実施することができた。

⑥ 85%

消費期限が近い備蓄品はなかった。次年度の消費期限の備蓄品があるので使っていく。

ケアハウス　なかやま幸梅園

【基本方針】

入居者の生活様式や生活習慣の違いを把握し、個人に必要な援助を行うと共に、集団生活での喜びや楽しさを実感できる家庭的で温もりのある施設を目指す。

居宅介護支援事業所、在宅サービス関連機関との連携を図り、心身共に健康で充実した生活ができるよう支援する。

【具体的取り組み】

1.　健康管理

日頃から入居者の表情や状態を観察し、医療機関、家族との連携に努め、早期に対応ができるよう配慮する。

（１）定期的及び状態に応じて健康チェックを行い、必要時には医療機関及び家族への連絡調整に努める。

（２）健康診断の場の提供及び予防接種の推進を行い疾病予防､早期発見に努める。

（３）入居者の急激な体調の変化に対し、家族、医療機関等への連絡調整に努め、迅速に対応できる体制をとる。

（４）感染症の知識及び予防対策等について情報を伝えると共に､日常的に手洗い、消毒、うがい等の声かけを行い、必要に応じて家族や外部への協力を依頼する。

（５）入居者自身が確実に服薬できるよう支援を行うとともに、必要に応じて定期薬の配布、服薬の確認を行う。

（６）毎月看護師による健康相談日を設け、一層の健康管理に努める。

2.　リスク管理

事故防止に努め、事故原因の検証、必要に応じた対策を講じる。

（１）身体機能維持、転倒予防に向け、足腰・口腔の体操を毎日実施する。

（２）地域包括支援センター及び、居宅介護支援事業所と連携し、安全管理に対する環境整備、個人に必要な介護用品、介護機器等の対応を行う。

（３）「ヒヤリハット」や軽度の事故についても検証し、再発防止に向け対策を講じる。

（４）外出外泊時の事故を防止するため、家族にも見守りや援助等の協力を依頼する。

（５）夜間、早朝の事故については、緊急時対応マニュアルに沿って、迅速に対応する。

（6）入居者が使用している福祉用具の点検を、定期的に実施する。

3. 自立生活の支援

安心してケアハウスでの自立生活が継続できるよう支援する。

（1）定期的に本人、家族、介護支援専門員、サービス関係機関及び、ケアハウス職員による担当者会議を行い、自立支援に向けた体制作りに努める。

（2）日常生活に援助を必要とする入居者には、地域包括支援センター及び居宅介護支援事業所と連携し、本人及び家族等の要望に沿った各種福祉サービスが利用できるよう配慮する。

4. 相談、助言、苦情処理

入居者や家族等からの相談、要望、苦情等には誠意をもって対応する。

（1）入居者及び家族からの相談、要望、苦情等には迅速かつ柔軟に対応する。また、必要時には専門職からのアドバイスも交え、適切な助言に努める。

（2）毎月入居者懇談会を実施し、苦情、要望等の確認及び対応に努める。

（3）必要に応じて家族との懇談会を開催し、施設の方針や情報の提供を行うと共に家族からの意見、要望に迅速に対応する。

5. アクティビティサービス

入居者同士の親睦及び、心身の活性化を図る活動や行事を計画し実施する。

（1）入居者の希望及び、状態に応じた活動を計画し実行する。

（2）入居者の要望に応じた外出、外食を実施する。

（3）創作する喜び、花木を育てる楽しみが味わえる活動を提供する。

（4）ボランティアの協力を得て、楽しく活動に参加できるよう支援する。

6. 防災対策

定期的に災害訓練を実施し､火災をはじめ地震､風水害等災害発生時に迅速かつ、適切な避難行動ができるよう入居者、職員の防災意識の向上を図る。

（1）定期的に防災訓練を実施し、日頃から災害についての説明や話し合いを行い意識の向上に努める。

（2）公用スペース及び居室内の家具類転倒防止等、安全点検を行い、必要な対策を講じる。

（3）電気機器や火の取り扱いについて入居者に注意を呼び掛けると共に、定期的に点検を実施する。

7. 職員間の連携と質の向上

検討課題の発生時は、職員間で早急に検討し、統一した対応や支援が行えるよう努める。

（１）報告、連絡、相談を徹底すると共に、定期的にケアハウス会議を開催し、統一した処遇を行う。

（２）研修会、講習会、勉強会等に積極的に参加し、知識の向上、技術の習得に努める。

（３）各事業所からの情報収集に努め、施設全体の動向に対処する。

（４）自らの接遇のあり方について適宜、職員間で話し合いを行い入居者、来園者に対し、質の高い接遇を目指す。

8. 環境整備

施設内の器具の点検、不良箇所の修繕を行う。

（１）定期的にベランダの清掃、物置き等の整理整頓を行う。

（２）居室内の建具、電気器具等の点検修理、及び必要に応じた取り換え等を実施する。

9. 地域貢献

地域住民との積極的な交流を図る。また、施設周辺の清掃作業等行い、環境美化にも貢献する。

（１）施設周辺の市が管理する土止め箇所の草引き及び清掃を行う。

（２）花の植え付けを行い地域の環境美化に貢献する。

（３）地域の夏祭りや行事､運動会など積極的に参加し､地域住民との交流を図る。

【重点目標】

① 障がいがあっても社会資源等を活用しながら、安心して自立生活が継続できるよう支援する。

② 確実に服薬できるよう、個々の状態に応じた支援を行う。

③ 入居者との面談を適宜実施し、個々の課題及びニーズの把握に努めると共にケアプランに沿った支援計画を作成し、その人らしい生活が継続できるよう支援する。

④ 入居者の希望や生活歴等を確認し、過去に訪れた地域及び、関わりの深い場所への外出活動を計画し実施する。

⑤ クラブ活動では、個々に応じた活動を提供し、入居者同士がお互いを認め合う関係性の構築に努め、親睦が深まるよう支援する。

⑥ 防災訓練時には、居室に設置してある防災頭巾を活用し安全意識の向上を図る。

⑦ ケアハウスで育苗した花苗を提供し、地域住民と共同で植え付けを行い、地域の環境美化に貢献する。

【総合評価】

達成度(%)　87.1%

＜評価＞

① 90%

個別の状態に応じた支援を行うことで、自立生活の継続に繋がっている。更なる社会資源の活用に努め、生活の質の向上に努めたい。

② 80%

個々の状態に応じて服薬支援を提供したが、服薬忘れ等が見受けられ徹底した服薬には至らなかった。アセスメントの再確認を行い、徹底に繋げる必要がある。

③ 85%

入居者との面談も適宜実施し、状態、状況等に応じた支援計画の作成、実施に繋げた。

④ 85%

入居者の要望及び、季節に応じた外出活動を実施することで、参加者からも喜びの声が多数聞かれた。しかし、外出内容が画一的であるため、更なる検討が必要である。

⑤ 80%

個々の状態に応じたクラブ活動は定期的に実施したが、入居者の高齢化と併せて身体、精神レベルが低下傾向であるため、支援方法や内容の検討等、再度、見直しが必要である。

⑥ 95%

定期的に防災に関する情報の提供を行う事で、防災に関する意識も向上傾向である。また、災害訓練時の防災頭巾着用者も増加している。今後も定期的に防災に関する情報提供を行い、更なる意識の向上を図りたい。

⑦ 95%

地域住民の協力を得て、入居者と一緒に野中地区へ花苗の植え付けを行った。共同で作業を行うことで地域住民との触れ合いに繋がったが、炎天下での作業であったため、作業の時季、時間帯等、検討が必要である。

令和1年度　　ケアハウス　なかやま幸梅園

１．入居者状況（R2.3.31）

・定員　１５名　　《一人部屋　１３室　　二人部屋　１室》

・出身地状況　　（単位：人）

出身地	男性	女性	合計
中山町	2	10	12
双海町	1		1
大洲市	1		1
合計	3	11	14

・年齢構成　　（単位：人）

年齢層	男性	女性	合計
61歳～70歳	1		1
71歳～80歳	2		2
81歳～90歳	1	3	4
91歳～100歳		7	7
合計	4	10	14

・平均年齢

全体	86.4歳
男性	75.2歳
女性	90.9歳

最高年齢 97歳　7ヶ月
最低年齢 63歳　5ヶ月

・在所期間状況　　（単位：人）

期間	男性	女性	合計
１年未満	1	1	2
１年以上～２年未満		1	1
２年以上～３年未満		2	2
３年以上～４年未満			
４年以上～５年未満	2	2	4
５年以上～６年未満		2	2
６年以上～７年未満	1		1
７年以上～８年未満			
８年以上～９年未満		2	2
合計	4	10	14

・月別入居率状況（月始めの入居人数）　　（単位：人）

月	4	5	6	7	8	9	１０	１１	１２	1	2	3	平均
27年度	15	15	15	14	15	15	15	14	14	15	15	14	14.6
28年度	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15.0
29年度	14	14	14	15	15	14	15	15	15	15	15	15	14.7
30年度	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15.0
令和1年度	15	15	15	15	15	15	15	14	15	15	15	14	14.8

・入居者　　2 名　　年齢は入居時によるもの

性　別	年　齢	出　身　地	入居年月日
男　性	62 歳	大洲市徳森	令和1年8月31日
女　性	85 歳	伊予市中山町	令和1年11月22日

・退居者　　3 名　　年齢は退居時によるもの

性　別	年　齢	年　月　日	入居期間	理　　由
女　性	85 歳	令和1年8月10日	1年4ヶ月	入院の継続
女　性	91 歳	令和1年10月5日	2年9ヶ月	他施設入居
男　性	85 歳	令和2年2月20日	3年11ヶ月	他施設入居

２.入居者心身状況　　()内は平成30年度状況　　令和2年3月31日（単位：人）

障害老人の日常生活自立度（寝たきり度）				認知症老人の日常生活自立度・障害自立度			
ランク	男	女	合計	ランク	男	女	合計
正常	0(0)	0(0)	0(0)	正常	0(0)	0(0)	0(0)
J-1	1(1)	0(0)	1(1)	Ⅰ	2(2)	3(4)	5(6)
J-2	2(2)	3(6)	5(8)	Ⅱ	0(0)	0(0)	0(0)
A-1	1(0)	0(3)	1(3)	Ⅱa	1(0)	1(1)	2(1)
A-2	0(1)	7(2)	7(3)	Ⅱb	0(0)	6(6)	6(6)
B-2	0(0)	0(0)	0(0)	Ⅲa	1(2)	0(0)	1(2)
合計	4(4)	10(11)	14(15)	合計	4(4)	10(10)	14(15)

３．要介護度状況　　令和2年3月31日

介護度	自立	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	合計
27年度		5	4	3		3		15
28年度	1	2	3	7		1		14
29年度	1	3	3	7				14
30年度	1	4	1	7	2			15
令和1年度	2	2	1	7	2			14

４．在宅福祉サービス利用状況　　家事、身体、訪問リハは令和2年3月31日の利用者数
通所介護、短期入所は利用合計日数

利用種別	家事援助	身体介護	訪問リハビリ	通所介護	短期入所
27年度	15名	11名		141日	57日
28年度	13名	7名	1名	384日	9日
29年度	12名	4名	1名	648日	5日
30年度	14名	11名		719日	18日
令和1年度	12名	11名	1名	726日	89日

５．受診状況

月	内科	精神科	脳外科	歯科	整形外科	泌尿器科	その他	合計回数
4	14	2	2	1	2	1		22
5	11	1	3		2			17
6	20	1	1	1	4			27
7	11	1		1	3	1		17
8	10	1	1	1	3		2	18
9	10	1	1		4		2	18
10	15	1		1	2	1	2	22
11	17	2		1	1		1	22
12	15		1	3	4	1		24
1	13	1			2	1		17
2	10	1	1	1	2			15
3	8	1		10	2		2	23
合計回数	154	13	10	20	31	5	9	242

・対比受診状況

受診科目	内科	精神科	脳外科	歯科	整形外科	泌尿器科	その他	合計
27年度	100	12	9	19	3	0	6	153
28年度	182	13	26	35	43	0	2	302
29年度	151	15	20	34	42	0	17	279
30年度	121	13	34	25	43	8	12	256
令和1年度	154	13	10	20	31	5	9	242

６．入退院状況

（単位：人）

月	4	5	6	7	8	9	１０	１１	１２	1	2	3	合計
27年度人数		1	1	1	1	1	1	1	1	3	3	1	15
入院日数		15	6	26	20	20	5	29	30	43	56	14	264
28年度人数												1	1
入院日数												10	10
29年度人数	1					1					1	1	4
入院日数	12					10					13	23	58
30年度人数					1	2	2	1	1			1	7
入院日数					2	43	34	30	13			4	126
令和1年度人数	1	1	1	1	1			2	1				8
入院日数	11	6	26	9	10			4	4				70

・個人別入院状況

性別	年齢	入院期間	入院日数	病名	入院先
女性	85	平成31年 4.1 ～31.4.11	11日	心不全	松山市民病院
男性	85	令和1年 5.26～1.6.26	32日	誤嚥性肺炎	愛媛医療センター
女性	85	令和1年 7.23～1.8.10	19日	心不全	県立中央病院
男性	73	令和1年11.16～1.11.17	2日	下肢静脈瘤	笠置記念心臓血管病院
男性	63	令和1年11.29～1.11.4	6日	肺炎	県立中央病院

７．事故状況　（医療機関受診を伴う事故）

No.	月　日	性別	事故内容	場所	事故状況	対応・処置等
1	5月26日	男性	転倒	居室	体調不良で立ち上がれず転倒	BD測定後、主治医に連絡。主治医指示にて救急搬送
2	8月27日	男性	転倒	2Ｆ廊下	バランスを崩し転倒	レントゲン異常なし。傷み止め、湿布の処方あり
3	1月5日	女性	誤嚥	2Fホール	咳き込んだ後、お茶を飲用し誤嚥	主治医より様子観察の指示あり。その後、変わりなし

事故発生状況　2019　ケアハウス なかやま幸梅園

発生内容／発生場所	受診の有無	転倒	転落	ずり落ち	衝突	誤嚥	誤薬	異食	離園	表皮剥離	利用者同士のトラブル	その他	合計
ホール	有					1							1
	無	1											1
居 室	有	1											1
	無						1					1	2
食 堂	有												0
	無												0
トイレ	有												0
	無												0
浴 室	有												0
	無												0
デイルーム（娯楽室）	有												0
	無												0
施設外	有												0
	無												0
その他	有	1											1
	無											2	2
小 計	有	2	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	3
	無	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	3	5
合 計		3	0	0	0	1	1	0	0	0	0	3	8

（評価）

誤薬、離園等アセスメント不足による事故が数件発生したが、骨折等、入院を伴う大きな事故は見受けられなかった。

ヒヤリハット件数　7件

８．月別外泊状況

老人保健施設、短期入所、入院含む

月	4	5	6	7	8	9	１０	１１	１２	1	2	3	合計
H27.人数		2	1	1	2	3	2	2	5	5	4	2	29人
日　数		16	5	25	49	61	31	31	35	47	64	14	378日
H28.人数	1	2	2	3	3	2	2	1	2	2		1	21人
日　数	1	2	4	8	13	2	2	1	6	6		13	58日
H29.人数	2			1	3	1		1	3	2	3	1	17人
日　数	14			1	11	10		3	3	5	15	22	84日
H30.人数		1			1	4	2	1	4	1	2	2	18人
日　数		1			2	46	34	30	21	3	3	5	145日
R1.人数	3	2	2	3	3	2	3	2	4	4	2		30人
日　数	17	27	60	58	43	36	21	12	35	19	22		350日

９.クラブ活動

曜日	クラブ活動名	ボランティア名	平均参加人数
日	ビデオ観賞	職員にて	13名
月	調　理	職員にて	11名
火	生け花	職員にて	9名
	レクリエーション	職員にて	11名
水	買い物	職員にて	4名
	手 芸	高本博美・宮田作美	10名
木	ひまわりクラブ	西岡芳教	12名
金	音楽クラブ	一色康子（特養ホール）	3名
土	喫　茶	職員にて	8名

１０．年間行事及び交流会

月	行　　事　　名
4	お花見会・外出(富士山)・泉町れんげ祭り
5	母の日会・運動会
6	くりのみフレンドリー祭り・外出（内子町）・父の日会・焼肉パーティー
7	野中地区花壇植え付け・期日前投票・風船バレー大会・防災訓練・外出（宇和町）
8	盆踊り大会・合同慰霊祭・そうめん流し・野中納涼祭見学・佐礼谷納涼祭見学
	老人クラブ交流会・こどもプラス交流会
9	ぶどう狩り(添賀)・敬老会
10	運動会見学(保育所)・観月祭・餅つき・地方祭・外食（松前町）・入居者健康診断
11	文化祭・外出(久万高原町)・亥の子・大規模避難訓練
12	保育所生活発表会見学・防災訓練・忘年会・クリスマス会・餅つき、しめ縄作り
1	歳旦祭・初詣・新年会
3	防災訓練

指定通所介護事業所　なかやま幸梅園

【基本方針】

利用者が自宅において自立した日常生活を営めるよう、必要な機能訓練等を行うことにより、心身、生活機能の維持改善及び向上を目指すと共に、利用者自ら主体的に活動ができるよう計画的かつ、効果的なサービス提供を行う。

【具体的取り組み】

1. 個別援助計画

利用者の心身状況及び、生活課題等のニーズを把握すると共に、各関係機関等と連携を図りながら、利用者及び、家族の希望に沿ったサービスを提供する。

（1）初回訪問時やサービス担当者会議等にて、利用者及び、家族の希望と、利用者の生活全般についてその状態を十分に把握する。

（2）サービスの提供にあたり、居宅サービス計画に基づいたケアプラン（通所介護計画）を立案し、事前に利用者及び、家族に説明し、同意を得る。

（3）定期的なモニタリング（評価）を実施し、より利用者のニーズに沿ったケアプランの実践に努める。

2. 機能訓練

利用者が有する能力を最大限活用しながら意欲的に活動できる訓練プログラムの開発及び、アクティビティ（集団的に行われるレクリエーション、創作活動等の機能訓練）の機能強化を図る。

（1）利用者の希望や、身体状態に適したリハビリメニューを検討し、継続的に実施することにより、身体機能の維持向上を図る。

（2）おやつ作りや洗濯物たたみ等の生活リハビリを利用者の嗜好や状態に合わせて、実践しながらＡＤＬ（日常生活動作）の維持向上に繋げる。

3. 健康管理

利用者の心身状況を確認し、本人及び家族、医療機関と連携を図り、健康維持に努める。また、感染症については、感染症マニュアルに沿った適切な対応を行う。

4. レクリエーション

利用者個々の特性に応じたレクリエーションを検討し、計画的に実施する。

（1）利用者のニーズに応じて、意欲的に参加できるレクリエーションメニューの検討及び、実施方法を工夫し、活動の幅を広げる。

（２）季節感を取り入れた年間行事や外出等を実施すると共に、地域行事等へも積極的に参加することで、社会性の維持向上を目指す。

5. リスク管理

利用者が安全に過ごせるように事故予防に努め、事故発生時の適切な対応及び再発防止を行う。

（１）介護用品や備品、危険箇所の点検を定期的に行い、安全かつ快適に過ごすための介護機器の検討と環境整備を行う。

（２）利用者の情報収集を十分に行い、予測できる事故について家族と共に理解し未然に防ぐ工夫をする。

（３）ヒヤリハット活動を充実させることにより事故予防に繋げる。

（４）事故発生時は、マニュアルに沿った迅速かつ適切な対応を行い、原因を多面的に検証し、再発防止に努める。

6. 防災対策

火災をはじめ、地震、風水害等災害の発生に備え、緊急時における利用者の生命と安全を確保するため、自主防災活動及び、地域防災組織等との連携強化を図る。

（１）火災害等の発生に備えて、状況に応じて迅速かつ、適切な避難誘導が行えるよう、定期的に避難訓練等を実施する。

（２）防災設備については、緊急時に十分機能するよう、日頃から定期的に点検整備を実施する。

（３）地震及び、風水害等発生時対応マニュアルに沿って、自然災害発生時における避難、救護体制の構築を図る。

（４）地域総合防災訓練への参加及び、消防機関、地域防災組織等との連携により地域ぐるみで自主防災機能の強化を図る。

7. 職員教育

質の高いサービスを提供するために、自己研鑽に努め、資質の向上を図る。

（１）園内外で開催される各種研修・勉強会等に参加し、専門的な知識、技術を修得し、業務の適正化及び、効率化に努める。

（２）挨拶、言葉遣い、身だしなみ等、職員としての基本的なマナーを身につけると共に、職員個々のコミュニケーション能力を高め、サービスの質の向上を目指す。

8. 地域交流

地域における行事等への参加や、地区住民との交流、ボランティア等の受け入れを通して、地域コミュニティ機能の充実を図る。

9. 地域貢献

関係機関と連携して、地域社会の中で生活していくための課題を発見し、地域における様々なニーズに柔軟に対応していく。

（1）地域行事に利用者と一緒に参加する。

（2）各関係機関、居宅介護支援センター、在宅支援センターと連携を図り、在宅生活を継続していく上で、サービスを必要としている人に対し早期に対応する。また、個々のニーズに対し、柔軟に対応する。

（3）地域のミニデイサービスに参加する事により住民が抱える福祉ニーズを把握し、これまでに培ってきた福祉サービスに関する専門性やノウハウを提供することで、地域福祉の充実を図る。

【重点目標】

① 認知症高齢者や、重度の要介護者が、住み慣れた地域での在宅生活が継続できるよう、関係機関との連携を密に図り、統一した個別援助の実施に努める。

② 接遇に関する目標を定め、定期的に評価・検討を行い、利用者個々の立場に立った対応を心掛ける。また、事業所独自の勉強会や、各種研修会へ積極的に参加することにより、職員個々の知識及び技術の向上と共有を図り、利用者が安心してサービスを利用できるよう質の向上に努める。

③ 日頃のコミュニケーションを通じ利用者の要望を取り入れたレクリエーションや、季節に応じた外出行事、調理レクリエーションを計画的に実施し、利用者が楽しみを持ってサービスが利用できるよう努める。

④ 利用者の重度化、介護ニーズの多様化に対応するため、サービス内容について検討し、個々に合ったケアができるよう努める。

⑤ 自立した生活を営むことができるよう必要に応じた機能訓練を実施する。

⑥ 地域でのミニデイサービス等の行事に参加する事により、デイサービスをより身近に感じてもらい様々なニーズを把握し、利用者の増加に繋げる。

⑦ 利用者の身体状況の測定や栄養スクリーニング等を実施することで、来年度に加算が取れるよう準備・整備をする。

【総合評価】

達成度(%)　77.8%

＜評価＞

① 80%

送迎の困難な事例に関して、各委員会や関係機関と相談・調整をして、受け入れ体制を作ったが、サービスの利用は無かった。次年度からも引き続き関係機関と連携をとり、利用者・家族のニーズに柔軟に対応し、安心した在宅生活が維持できるよう努めたい。

② 75%

事業所内で勉強会を行い、職員の接遇や介護技術の向上に繋げた。次年度からは年間を通しての勉強会の計画を立て、また、職員主体になって勉強会を開催する等、職員個々の更なるスキルアップに繋げたい。

③ 80%

外出行事を定期的に行うことで、季節感を感じ、楽しみを持って利用できるよう努めたが、年度末はコロナウイルスの影響で、外出行事は自粛した。代わりに調理レクリエーションの回数を増やす等の工夫をし、退屈せずに安心して利用できるよう努めた。

④ 80%

医療依存度の高い利用者（インスリン注射や食事制限のある利用者）に関して、各関係機関や各職種の職員と連携や打ち合わせを行いながら、対応のできる環境を整えた。

⑤ 75%

リハビリや歩行、福祉器具の使用方法を担当の理学療法士にアドバイスを受け、可能な限り自宅と同様のリハビリを実施したが、一部実施できていない利用者がいた。

⑥ 75%

地域のサロンに参加し、デイサービスの活動内容の紹介をし、一緒に体操等を行うことで、より身近にデイサービスを感じてもらえた。また、地域特有の悩みを把握し、利用者の増加に繋げたが、実施のできていない地区もあった。

⑦ 80%

バーセルインデックス（利用者の身体状況の測定法）や、栄養スクリーニングを実施することにより、加算が取れるように準備を進めていたが、加算要件を満たさず、算定に至らなかった。次年度も引き続き準備をして行く。

指定通所介護（介護予防）事業所　なかやま幸梅園

【基本方針】

利用者が自宅において自立した日常生活を営めるよう、必要な機能訓練等を行うことにより、心身、生活機能の維持改善及び向上を目指すと共に、利用者自ら主体的に活動ができるよう計画的かつ、効果的なサービス提供を行う。

【具体的取り組み】

1. 個別援助計画

利用者の心身状況及び、生活課題等のニーズを把握すると共に、各関係機関等と連携を図りながら、利用者及び、家族の希望に沿ったサービスを提供する。

（1）初回訪問時やサービス担当者会議等にて、利用者及び、家族の希望と、利用者の生活全般についてその状態を十分に把握する。

（2）サービスの提供にあたり、居宅サービス計画に基づいたケアプラン（介護予防通所介護計画）を立案し、事前に利用者及び、家族に説明し、同意を得る。

（3）定期的なモニタリング（評価）を実施し、より利用者のニーズに沿ったケアプランの実践に努める。

2. 機能訓練

利用者が有する能力を最大限活用しながら意欲的に活動できる訓練プログラムの開発及び、アクティビティ（集団的に行われるレクリエーション、創作活動等の機能訓練）の機能強化を図る。

（1）利用者の希望や、身体状態に適したリハビリメニューを検討し、継続的に実施することにより、身体機能の維持向上を図る。

（2）おやつ作りや洗濯物たたみ等の生活リハビリを利用者の嗜好や状態に合わせて、実践しながらＡＤＬ（日常生活動作）の維持向上に繋げる。

3. 健康管理

利用者の心身状況を確認し、本人及び家族、医療機関と連携を図り、健康維持に努める。また、感染症については、感染症マニュアルに沿った適切な対応を行う。

4. レクリエーション

利用者個々の特性に応じたレクリエーションを検討し、計画的に実施する。

（1）利用者のニーズに応じて、意欲的に参加できるレクリエーションメニューの検討及び、実施方法を工夫し、活動の幅を広げる。

（２）季節感を取り入れた年間行事や外出等を実施すると共に、地域行事等へも積極的に参加することで、社会性の維持向上を目指す。

5. リスク管理

利用者が安全に過ごせるように事故予防に努め、事故発生時の適切な対応及び再発防止を行う。

（１）介護用品や備品、危険箇所の点検を定期的に行い、安全かつ快適に過ごすための介護機器の検討と環境整備を行う。

（２）利用者の情報収集を十分に行い、予測できる事故について家族と共に理解し未然に防ぐ工夫をする。

（３）ヒヤリハット活動を充実させることにより事故予防に繋げる。

（４）事故発生時は、マニュアルに沿った迅速かつ適切な対応を行い、原因を多面的に検証し、再発防止に努める。

6. 防災対策

火災をはじめ、地震、風水害等災害の発生に備え、緊急時における利用者の生命と安全を確保するため、自主防災活動及び、地域防災組織等との連携強化を図る。

（１）火災害等の発生に備えて、状況に応じて迅速かつ、適切な避難誘導が行えるよう、定期的に避難訓練等を実施する。

（２）防災設備については、緊急時に十分機能するよう、日頃から定期的に点検整備を実施する。

（３）地震及び、風水害等発生時対応マニュアルに沿って、自然災害発生時における避難、救護体制の構築を図る。

（４）地域総合防災訓練への参加及び、消防機関、地域防災組織等との連携により地域ぐるみで自主防災機能の強化を図る。

7. 職員教育

質の高いサービスを提供するために、自己研鑽に努め、資質の向上を図る。

（１）園内外で開催される各種研修・勉強会等に参加し、専門的な知識、技術を修得し、業務の適正化及び、効率化に努める。

（２）挨拶、言葉遣い、身だしなみ等、職員としての基本的なマナーを身につけると共に、職員個々のコミュニケーション能力を高め、サービスの質の向上を目指す。

8. 地域交流

地域における行事等への参加や、地区住民との交流、ボランティア等の受け入れを通して、地域コミュニティ機能の充実を図る。

9. 地域貢献

関係機関と連携して、地域社会の中で生活していくための課題を発見し、地域における様々なニーズに柔軟に対応していく。

（1）地域行事に利用者と一緒に参加する。

（2）各関係機関、居宅介護支援センター、在宅支援センターと連携を図り、在宅生活を継続していく上で、サービスを必要としている人に対し早期に対応する。また、個々のニーズに対し、柔軟に対応する。

（3）地域のミニデイサービスに参加する事により、住民が抱える福祉ニーズを把握し、これまでに培ってきた福祉サービスに関する専門性やノウハウを提供することで、地域福祉の充実を図る。

【重点目標】

① 今後増加が見込まれる認知症高齢者が、住み慣れた地域で、より自立した在宅生活が維持できるよう努める。

② 接遇に関する目標を定め、定期的に評価・検討を行い、利用者個々の立場に立った対応を心掛ける。また、事業所独自の勉強会や、各種研修会へ積極的に参加することにより、職員個々の知識及び技術の向上と共有を図り、利用者が安心してサービスを利用できるよう質の向上に努める。

③ サービス提供に関して、家族や利用者個々のニーズに対し柔軟な対応ができるよう努める。

④ 日頃のコミュニケーションを通じ利用者の要望を取り入れたレクリエーションや、季節に応じた外出行事、調理レクリエーションを計画的に実施し、利用者が楽しみを持ってサービスが利用できるよう努める。

⑤ 関係機関と連携を図り、統一した個別援助の実施に努める。

⑥ 地域でのミニデイサービス等の行事に参加することにより、デイサービスをより身近に感じてもらい様々なニーズを把握し、利用者の増加に繋げる。

【総合評価】

達成度(%)　　78.3%

＜評価＞

① 85%

独居や高齢夫婦の利用者も、困ったことがないか相談をし、家族・関係機関と連絡を取り合いながら、在宅生活が維持できるように支援をした。また、災害時にも、安否の確認を行う等、安心して在宅生活が継続できるように支援した。

次年度からは、町外に住む家族とも定期的に連絡を取り合う等、より一層サポートができる体制を整えたい。

② 75%

事業所内で勉強会を行い、職員の接遇や介護技術の向上に繋げた。次年度からは年間を通しての勉強会の計画を立て、また、職員主体になって勉強会を開催する等、職員個々の更なるスキルアップに繋げたい。

③ 80%

家族からの相談があった場合や担当者会議を通じて家族の困りごとや家庭での状況を把握し、関係機関と連携を取り合いながら対応に務めた。

④ 80%

外出行事を定期的に行うことで、季節感を感じ、楽しみを持って利用できるよう努めたが、年度末はコロナウイルスの影響で、外出行事は自粛した。代わりに調理レクリエーションの回数を増やす等の工夫をし、退屈せずに安心して利用できるよう努めた。

⑤ 75%

リハビリや歩行、福祉器具の使用方法を担当の理学療法士にアドバイスを受け、可能な限り自宅と同様のリハビリを実施したが、一部実施できていない利用者がいた。

⑥ 75%

地域のサロンに参加し、デイサービスの活動内容の紹介をし、一緒に体操等を行うことで、より身近にデイサービスを感じてもらえた。また、地域特有の悩みを把握し、利用者の増加に繋げたが実施のできていない地区もあった。

令和1年度

指定通所介護事業所 なかやま幸梅園

1．事業内容　　区分：通所介護〔併設型〕利用定員 30名
体制：入浴介助体制〔あり〕

2．開所日数　　：　313　日　　(稼働率:79.1%)

3．利用実績

(単位:人)

項目＼月		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合　計
登録人数		81	79	83	75	74	79	78	79	72	72	70	77	919
実利用人数		74	73	71	70	73	77	76	73	69	70	68	70	864
介護度別利用者数	要支援1･2	150	152	139	142	137	117	129	118	106	112	112	114	1,528
	要介護1	273	289	222	249	281	251	290	256	250	231	238	249	3,079
	要介護2	93	84	137	144	123	169	178	155	153	153	143	148	1,680
	要介護3	52	50	56	65	65	69	93	84	78	85	80	58	835
	要介護4	30	33	30	42	30	21	25	21	11	5		13	261
	要介護5	8	3							6	13	14		44
	合　計	606	611	584	642	636	627	715	634	604	599	587	582	7,427
1日平均		23.3	22.6	23.3	23.7	23.6	25.0	26.4	24.3	23.2	23.0	23.4	22.3	284.1
月～土曜日平均		23.3	22.6	23.3	23.7	23.6	25.0	26.4	24.3	23.2	23.0	23.4	22.3	284.1
開所日数		26	27	25	27	27	25	27	26	26	26	25	26	313
延べ入浴者数		455	465	425	477	521	502	552	505	514	520	502	482	5,920
平均入浴者数		17.5	17.2	17.0	17.7	19.3	20.0	20.4	19.4	19.7	20.0	20.0	18.5	226.7

4．要介護度別利用者状況

介護度＼月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合　計
要支援	27	25	25	23	24	21	21	20	17	18	18	19	258
要介護1	25	26	23	22	23	26	26	26	25	25	25	29	301
要介護2	12	12	15	15	15	19	18	15	15	15	15	14	180
要介護3	6	6	6	7	8	9	9	9	8	9	8	7	92
要介護4	3	3	2	3	3	2	2	3	3	1			25
要介護5	1	1							1	2	2	1	8
合　計	74	73	71	70	73	77	76	73	69	70	68	70	864

５．介護度別利用者年齢構成

令和2年3月31日

介護度	要支援		要介護１		要介護２		要介護３		要介護４		要介護５		合計
性別 / 年齢階層	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	
64歳以下													
65歳～69歳					1		1						2
70歳～79歳			1	1	1	1							4
80歳～89歳	1	9	11	8	3	4	2	2					40
90歳以上	3	6	2	6	2	2	1	1				1	24
総計	19		29		14		7				1		70

６．年間利用状況推移

月 / 年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
平成27年度	512	546	537	542	521	499	570	551	591	476	552	585	6,482
平成28年度	587	604	618	674	685	631	648	623	641	623	598	655	7,587
平成29年度	670	713	666	645	669	719	710	680	643	571	548	679	7,913
平成30年度	645	665	658	669	687	630	725	672	633	590	580	626	7,780
令和1年度	606	611	584	642	636	627	715	634	604	599	587	582	7,427

７.事故状況　（医療機関受診を伴う事故）

No.	月　日	性別	事故内容	発生場所	事故状況	対応・処置内容等
1	7月8日	女	転倒	脱衣所	着衣時に数歩歩いて転倒	頭部CT検査　異状なく様子観察
2	11月5日	男	誤嚥	ﾃﾞｲﾙｰﾑ	肉団子にムセあり、顔面紅潮。タッピングをすると口から肉団子が出てくる。	血液検査　レントゲン撮影　様子観察の指示
3	12月7日	女	転倒	浴室	洗身時に手すりを持って立ち上がる際にバランスを崩し転倒	レントゲン撮影　診察　3日間様子観察の指示

事故発生状況　　2019　　通所介護事業所 なかやま幸梅園

発生場所＼発生内容	受診の有無	転倒	転落	ずり落ち	衝突	誤嚥	誤薬	異食	離園	表皮剥離	利用者同士のトラブル	その他	合計
ホール	有												
	無												
居 室	有												
	無												
食 堂	有												
	無											2	2
トイレ	有												
	無												
浴 室	有	2											2
	無									1		1	2
デイルーム（娯楽室）	有					1							1
	無	1										3	4
施設外	有												
	無											1	1
その他	有												
	無											1	1
小 計	有	2				1							3
	無	1								1		8	10
合 計		3				1				1		8	13

（評価）

前年度の20件から13件と減少。デイルームでの事故が多く、次いで浴室の事故が多かった。服薬関係の事故が多く、職員の確認不足やマニュアルを守れず発生した事故も数件あり、カンファレンスを利用してマニュアルの再確認を行った。

ヒヤリハット件数　31件

８.苦情発生の状況

苦情発生　なし

指定居宅介護支援事業所　なかやま幸梅園

【基本方針】

自宅において、その有する能力に応じた自立生活が営めるよう、利用者、家族と一緒に考え、個々の解決すべき課題、その心身の状況や置かれている環境等に応じて保健・医療・福祉にわたるサービスが、総合的かつ効率的に提供できるよう支援する。

【具体的取り組み】

1. 介護保険最新情報の把握・家族への説明

介護保険制度改正の対応を適切に行い、利用者・家族が安心してサービスを利用できるよう情報提供を行うと共に、サービス関係機関との連携を密に行う。

2. 居宅サービス計画の充実

利用者の心身の状態や環境、生活歴を把握すると共に、課題等を分析し、本人の力を引き出せるようなサービスを利用者・家族・サービス担当者等を含めて検討することで、その人らしい生活ができるようにケアプランを作成する。

安全で安楽に過ごせるように、自宅での生活動線を把握し、環境を整える。

3. サービスの評価

毎月の訪問時に、利用者の心身状態及び生活状況を把握すると共に、サービス事業者の意見を参考に、計画が適切であるかを確認しながら援助目標の達成度を毎月評価し、計画見直しが必要な場合には担当者会議へ繋げる。

4. 医療と介護の連携

医療と介護の継ぎ目のないサービスを効果的に利用できるようにする観点から、入院時や退院･退所時に病院等と連絡を取り合い､利用者に関する情報共有を行う。

ターミナル期には主治医などの助言を得つつ、通常よりも頻回に訪問し、利用者の心身の状態変化やサービス変更の必要性を把握、記録し主治医やサービス事業所に情報提供を行う。

5. 認知症高齢者・独居高齢者等の支援及び地域貢献

認知症や独居になっても住み慣れた地域での生活が継続できるように、地域との繋がりを保つケアマネジメントを実施し、在宅介護支援センターと協力しながら地域貢献を行う。また、緊急時の対応がスムーズに行えるよう、連絡先の再確認や、緊急災害時連絡一覧の更新を行う。

6. 地域包括支援センターとの連携

常に地域包括支援センターと連携を図り、困難ケースを積極的に受け入れ、必要時には、包括支援センターが開催する地域ケア会議に参加する。

7. 障がい福祉の相談支援専門員との連携

障がい福祉サービスの利用者が、介護保険に移行する場合に適切なケアプランが作成できるように、障がい福祉制度の相談支援専門員との連携に努める。

8. 資質向上

利用者に関する情報又はサービス提供に当たっての留意事項に係る伝達等を目的とした居宅会議を週１回実施する

介護支援専門員全員が、具体的な研修目標、内容を個別に作成し、必要な研修には積極的に参加し、評価を行う。

伊予市内の他の居宅介護支援事業所と共同で事例検討会や研修会などを行い、伊予市介護支援専門員連絡会にも参加する。

伊予市介護保険事業適正化に係るケアプラン点検の提出を行い、行政からの指導や提案を踏まえつつ、ケアプランの見直しや改善を行う。

伊予市地域ケア個別会議への参加を行う。

【総合評価】

達成度(%)　　83.1%

＜評価＞

① 85%

消費税増税に伴う支給限度額の変更やサービス料金の変更などを利用者家族に説明すると共に、提供票を正しく作成し事業所へ渡すことができた。

② 85%

利用者、家族、事業所から情報収集し、適切なケアプランを作成できた。

③ 80%

毎月の訪問はできたが、モニタリングの記録が遅れがちであった。

④ 85%

入院時には 3 日以内に情報提供し、退院前のカンファレンスにも積極的に参加できた。

⑤ 85%

独居生活が困難になった対象者が希望の施設に入れるよう対応できた。

⑥ 80%

地域包括支援センターとの連携は十分とれたが、包括主催の地域ケア会議の開催及び、困難ケースの依頼は共になかった。

⑦ 80%

障害福祉サービスから介護保険への移行対象者はいなかったが、必要時には相談支援専門員との連携体制は維持できている。

⑧ 85%

週 1 回の居宅会議、年 2 回の他法人との事例検討会、年 3 回の伊予市ケアマネ連絡会の他、12 の研修にケアマネ 1 名から 2 名が参加し、伊予市地域ケア個別会議では 1 事例発表できた。

1　サービス計画数

（要支援1・要支援2は伊予市包括支援センターからの委託を受けて実施）　　（単位：人）

介護度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
要介護1	59	51	47	49	50	52	50	48	49	49	49	53	606
要介護2	36	40	43	42	39	41	39	39	37	36	33	33	458
要介護3	13	14	15	16	18	17	20	19	19	19	22	22	214
要介護4	18	16	16	16	13	10	11	13	13	11	10	11	158
要介護5	2	4	3	4	3	3	3	3	3	4	4	4	40
要介護　計	128	125	124	127	123	123	123	122	121	119	118	123	1,476
要支援1・2	43	44	45	41	42	44	42	41	37	41	41	43	504
介護+支援の数	171	169	169	168	165	167	165	163	158	160	159	166	1,980
介護+支援1/2の数	150	147	147	148	144	145	144	143	140	140	139	145	1,728
事業対象者	2	2	2	3	3	3	3	2	2	2	2	2	24

＜サービス計画数　5年間の動き＞　　（要支援は二人で一人として計算・ケアマネ1人35人上限）

（事業対象者は持ち人数へのカウントなし）

	27年	28年	29年	30年	R1年
計画数	1,586 (1,657)	1,817 (2,056)	1,810 (1,997)+21	1,820 (2,066)+24	1,728 (1,980)+24
要介護数	1,515	1,578	1,623	1,573	1,476
要支援数	142	478	374	493	504
ケアマネ数	4.7	4.8	5	5	5
1人の持ち人数	28.1 (29.3)	31.5 (35.7)	30.2 (33.3)	30.3 (34.4)	28.8 (33)
（事業対象者入り）			33.6	34.8	33.4

2　契約開始と契約終了の状況

（単位：人）

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
介護、新規契約		4	7	3	3	3	10	3	8	5	5	1	5	57
予防、新規委託		3	2	2	2	1	1	1	0	4	0	4	1	21
契約終了	永眠	1	1	3	2	0	5	4	2	1	2	1	2	24
	施設入所	1	2	3	6	3	1	1	0	8	3	2	2	32
	その他	1										1		2

3　加算対応件数

（単位：人）

項目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
予防初回加算	1	2	4	0	1	2	0	2	2	2	1	3	20
介護初回加算	4	10	8	8	3	5	9	7	6	7	5	4	76
入院連携加算	3	3	3	2	2	4	4	3	1	1	3	3	32
退院退所加算	3	0	2	2	2	3	1	0	3	0	1	2	19
合計	11	15	17	12	8	14	14	12	12	10	10	12	147

4　介護保険代行申請数

（単位:人）

種類	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
新規	4	2	1	1	0	4	1	4	1	2	3	3	**26**
介護保険更新	10	9	5	4	4	8	6	6	6	7	2	6	**73**
介護予防更新	1	3	2	4	5	0	6	0	1	0	3	1	**26**
区分変更	1	8	1	4	0	0	2	3	6	2	0	4	**31**
合計	**16**	**22**	**9**	**13**	**9**	**12**	**15**	**13**	**14**	**11**	**8**	**14**	**156**

5　事業所への提供依頼状況

（単位:人）

サービス種別	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
訪問介護	48	49	49	40	44	45	41	44	44	40	41	42	**43.9**
訪問看護	24	24	26	24	23	20	16	16	16	16	14	14	**19.4**
通所介護	49	52	49	49	51	58	57	56	54	53	53	57	**53.2**
通所リハビリ	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	**1.0**
地域密着通所介護	60	59	60	56	53	54	52	56	56	50	54	56	**55.5**
短期入所生活介護	44	47	40	45	47	50	47	46	47	43	36	41	**44.4**
訪問リハビリ	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	**0.1**
福祉用具貸与	64	66	67	71	68	69	65	63	66	67	70	71	**67.3**
介護予防訪問介護	13	13	14	12	12	12	13	13	11	11	11	11	**12.2**
介護予防訪問看護	4	5	5	5	4	5	5	5	6	6	6	7	**5.3**
介護予防通所介護	32	31	30	31	30	30	28	27	23	24	25	25	**28.0**
介護予防通所リハビリ	0	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	**0.9**
予防短期入所生活介護	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	**0.1**
介護予防福祉用具貸与	15	16	15	12	14	14	14	15	14	16	15	14	**14.5**
総合事業　がんばる会	3	3	4	4	5	5	5	4	4	4	5	5	**4.3**
合　計	**358**	**367**	**362**	**351**	**353**	**364**	**345**	**347**	**343**	**332**	**332**	**345**	**349.9**

6　サービス担当者会議開催数

（単位:回）

開催月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
開催回数	36	37	40	33	29	31	28	40	37	32	28	29	**400**

7　主治医への照会依頼

（医療系サービスや軽度者の福祉用具レンタル利用に関する意見の照会等）

（単位:件）

提出月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
薬情請求	22	25	18	19	17	17	21	25	24	12	16	22	**238**
照会	4	7	6	5	5	0	1	3	4	0	2	2	**39**

８　福祉用具購入費の支給申請

No.	申請月	対象者		福祉用具名
1	4	介護4	男	ポータブルトイレ
2	4	介護1	女	ポータブルトイレ
3	5	支援1	男	シャワー椅子
4	5	介護3	女	ポータブルトイレ
5	7	支援2	女	シャワー椅子・浴槽台
6	7	介護3	女	ポータブルトイレ
7	7	介護2	男	シャワー椅子
8	10	介護1	男	シャワー椅子
9	12	支援1	女	ポータブルトイレ
10	12	支援1	男	浴槽台
11	12	支援1	女	浴槽台
12	12	介護2	男	ポータブルトイレ
13	12	介護3	男	ポータブルトイレ
14	1	介護4	女	浴槽台
15	2	介護3	女	ポータブルトイレ
16	3	介護2	男	シャワー椅子

＜福祉用具購入 5年間の動き＞

年度	27年	28年	29年	30年	R1年
件数	14	6	14	17	16

９　住宅改修費の支給申請

No.	申請月	対象者		改修内容
1	4	介護3	男	手すり(屋外)
2	4	介護4	男	手すり(廊下)スロープ
3	6	介護2	男	手すり(廊下・トイレ)
4	7	支援2	女	手すり(玄関・トイレ・浴室)
5	7	介護3	女	手すり(屋外)
6	7	介護2	男	手すり(廊下・トイレ・浴室)
7	10	介護1	男	手すり(廊下・脱衣場)スロープ
8	10	介護3	女	手すり・床上げ
9	10	介護3	男	トイレ(和式→洋式)
10	12	介護2	男	手すり(廊下・居間・浴室)
11	12	支援1	女	手すり(浴室・脱衣場)
12	1	介護2	男	手すり(トイレ・台所・勝手口)
13	1	支援1	女	手すり(廊下・玄関・トイレ・脱衣場)
14	2	介護2	男	手すり(屋外・道路～家まで)
15	2	支援2	女	手すり(廊下・トイレ)踏み台
16	3	介護2	男	手すり(廊下・玄関・玄関ポーチ・台所・居間)

＜住宅改修 5年間の動き＞

年度	27年	28年	29年	30年	R1年
件数	22	12	19	17	16

１０　居宅会議開催数

(単位:回)

開催月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
開催回数	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	4	59

１１　研修会等への参加

研修日	内容	参加人数	場所	研修日	内容	参加人数	場所
5/21	県ケアマネ協会総会	1	松山市	9/20	県在宅研修センター(認知症も共に暮らせる社会を考える)	1	松山市
5/24	ゲートキーパー養成講座	1	伊予市	10/24	西日本豪雨災害喜多地区社協・大洲社協の取り組み	1	大洲市
5/31	県在宅研修センター(老人介護　基本の「き」)	1	伊予市	11/22	全国老施協全国大会	2	松山市
6/24	県在宅研修センター(地域包括ケアシステム)	1	松山市	12/10	中予保健所介護予防従事者研修大会	1	松山市
6/28	県在宅研修センター(自立支援の介護を学ぼう)	1	松山市	12/26	県在宅研修センター(認知症の方への関わりと看取り)	1	松山市
7/11	松山圏域地域包括ケア推進のための研修	1	松山市	1/7	介護支援専門員実務研修　見学学習指導者研修	1	松山市
8/1	『とべ「ホット」けれん事業に学ぶ』	2	伊予市	1/16	高齢者の在宅生活を支える医療・介護連携について	2	松山市
8/14	介護支援専門員　更新研修	1	松山市	2/14	地域リーダー養成研修	1	松山市
8/20	県在宅研修センター(愛媛県の高齢社会を考える)	1	松山市	2/27	中予保健所　難病地域ケア研修会	1	松山市
9/9	伊予市在宅医療・介護連携推進事業専門部会	1	伊予市	3/2	栄養講座 「食事で私も若返り」	1	伊予市

１２　その他代行申請

社会福祉協議会オムツ申請(寝たきりか重度認知症で尿便意のない人) ⇒ 新規申請数 7件

在宅介護支援センター　なかやま幸梅園

【基本方針】

中山町の高齢者やその家族に対し、介護や医療などの相談支援を行い、必要に応じて保健・医療・福祉サービスが円滑に受けられるよう関係機関と連携し、在宅での生活が継続できるよう支援を行う。また、介護予防や啓発、地域の課題解決に向けた取り組みなどの地域貢献を行う。

【具体的取り組み】

1. 地域ケア会議

保健・医療・福祉・行政関係者が集まり、中山町における要援護者の抱える問題解決に向けた情報交換等を行う場として月に一度開催する。地域包括ケアシステムの構築に向けて行政・関係機関と連携を取りながら検討する。

2. 一般介護予防

介護予防の基本的な知識を普及啓発するため、各種教室や相談などの実施、サロン等の地域における自主的な介護予防活動を支援する。また、引き続き地域の課題解決に向けてコミュニティ強化等の取り組みを検討する。

3. 家族介護教室

家族や地域住民などへ介護に関する知識や技術の習得を目的とした勉強会や研修旅行などを開催する。また、家族や要介護者の気分転換や親睦、専門職や地域住民との交流の場として、引き続き誰でも参加できるカフェ等の場所作りに取り組む。

4. 認知症相談

中山町の住民に対して､愛媛大学医学部付属病院の専門医が認知症に関する相談、診察などを行い早期発見・治療に繋げる。また、地域住民や福祉関係者を対象に認知症への理解に向けた啓発活動を行う。

中山町健康調査については､28 年度から行われている第５回調査（コホート調査）の追跡調査が円滑に進むよう地域住民や関係機関と連携を図ると共に、対象者のフォローアップを行い、引き続き認知症予防を目的とした定期的な教室を開催する。

5. 高齢者配食サービス事業

独居や高齢者夫婦、日中独居状態の高齢者を対象に安否確認と栄養確保を目的とした配食サービスを実施し、訪問時の急変に対しては迅速な対応を行う。また、配

食サービスの認知度向上に取り組む。

6. 施設の委託管理

（1）伊予市高齢者共同住居

入居者の生活支援と安全の確保に取り組むと共に、年度末の閉鎖に向けて入居者の転居をサポートする。

1．昼食作りや建物の清掃、生活相談などの援助を行う。

2．交通の不便さを緩和するための定期バスを週一回運行し、社会生活から孤立しないよう支援する。

3．要介護や支援状態になっても、介護保険サービスを利用しながら、可能な限り共同住居での生活が続けられるように支援する。

4．行政が指定する９月末までに、入居者が転居先を見つけられるよう関係機関と連携を取りながら支援する。

（2）中山老人憩の家

中山地域の高齢者または要援護高齢者の集会や憩いの場として施設を提供し高齢者間の交流を促進する。また、今後の中山老人憩の家の動向については引き続き情報収集を行う。

7. 中山老人憩の家自主事業「がんばる会」

中山老人憩の家において、高齢者の外出する機会を作り、レクリエーション活動などを通して交流や生きがいを見つけ、閉じこもりなど社会的孤立防止や心身機能維持などの予防・啓発に努める。また、利用者の社会参加や利用者を活かせる環境作りなどを模索していく。介護予防・生活支援サービス事業の基準緩和型サービスについては引き続きがんばる会と並行して実施する。

8. 地域包括ケア相談窓口設置事業

伊予市地域包括支援センターの窓口機関（ブランチ）設置委託を受け、中山町において支援を必要とする高齢者及び家族などの相談に応じながら、個々または地域の課題発見並びに解決を図る。また、必要に応じて関係機関と連絡調整を行い、適切なサービスに結び付けるなど要支援・要介護状態にならないよう継続的な支援を行う。サービスの導入や支援に支障が出ないよう引き続き伊予市地域包括支援センターと連携を密にする。

【総合評価】

達成度(%)　78.1%

＜評価＞

① 85%

地域ケア会議：関係機関と情報交換・共有を図り、必要に応じて支援に繋げることができた。また、困難事例の検討会を実施した。

② 85%

一般介護予防：認知症予防等を目的とした介護予防教室を定期的に実施し、地域のサロンでも教室を行い事業としては上限である 24 回実施した。また、引き続き協議体へも参加し地域課題解決に向けての検討を行った。

③ 70%

家族介護教室：介護に関する知識の普及を目的とした教室を 11 回実施した。対象を家族に限らず、地域住民への普及啓発も行えたが、家族間の親睦や交流の機会は減少した。

④ 85%

認知症相談：毎月 2 回、専門医による診察や相談を行い、相談件数は 59 件であった。第 5 回中山町調査については引き続き追跡調査のサポートを行った。

⑤ 70%

高齢者配食サービス事業：安否確認と栄養確保を目的に配食を行った。前年に比べ減少し、年間延べ 1,504 食、1 日平均 4.1 食であった。

⑥ 70%

施設の委託管理：高齢者共同住居は 9 月末で閉鎖、中山老人憩の家については 3 月末で閉鎖。それぞれ閉鎖まで管理を行った。

⑦ 80%

がんばる会：自主事業のがんばる会は年間延べ 1,963 名が利用し、1 日平均 9.2 名となっている。基準緩和型サービスは年間延べ 205 名が利用した。基準緩和型サービスについては中山老人憩の家閉鎖に伴い廃止となった。

⑧ 80%

支援の必要性が高い高齢者に対し実態把握を行い、必要なサービス等の提供に繋げた。相談件数は 315 件、緊急性または継続的な関わりが必要なケースは 47 件であった。

１．地域ケア会議実績

目　的　　保健・医療・福祉・行政関係者が集まり、中山町における要援護者の抱える問題解決に向けた情報交換等を行う場として月に一度開催する。

開催日　　毎月第1木曜日　13時30分～

開催場所　　なかやま幸梅園 会議室等

出席者　　保健・医療・福祉などの現場職員を中心に15名程度

医師・訪問看護師、歯科医師・歯科衛生士、保健センター職員・保健師、社協専門員・居宅介護支援事業所、各居宅サービス事業所、施設相談員、地域包括支援センター、在宅介護支援センター

実施回数　　年間11回（新型コロナウイルス予防のため3月以降は中止し、資料配布による情報交換にて対応

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
月別参加者数	11	16	17	15	15	14	17	13	12	12	17	中止	148

２．　一般介護予防

目　的　　介護予防の基本的な知識を普及啓発するため、各種教室や相談などの実施、サロン等の地域における自主的な介護予防活動を支援する。

内　容　　転倒骨折予防、認知症予防、介護予防教室（調理や脳トレ、体操など）

対象者:　　65歳以上の高齢者及びその支援のための活動に関わる者

講　師:　　訪問看護ステーションくるみ　杉 直征　理学療法士

令和1年度　転倒骨折予防

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
実施回数	1	1	2	1	2	1	2	1			1		12
参加人数	10	11	21	11	24	13	24	10			13		137

平成30年度

実施回数		1	4						1	3	1	2	12
参加人数		25	44						24	35	18	21	167

令和1年度　認知症予防

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
実施回数	1	2	1	2	1	2	1		1		1		12

平成30年度

実施回数				3	1	1			3	2	1	1	12

３．家族介護教室事業実績

目　　的　：　高齢者を介護している家族及びボランティア等に対し、介護方法や介護予防及び介護者の健康作り等についての知識及び技術を習得させるための教室を開催することにより、高齢者を介護している家族等の身体的・精神的負担の軽減を図ると共に在宅福祉の向上及び介護予防に資することを目的とする。

協力機関　：　保健センター・社会福祉協議会　居宅介護支援事業所　介護保険対象事業所

開催場所　：　総合福祉施設なかやま幸梅園等

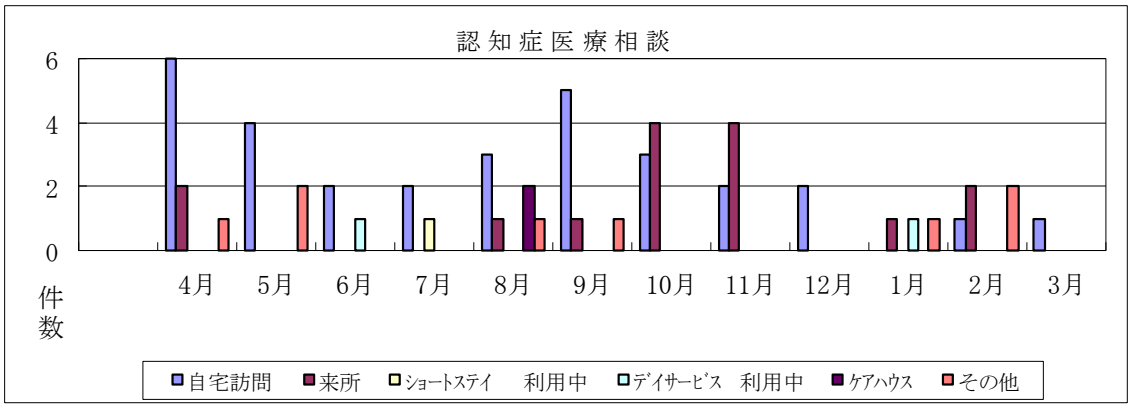
月	日	曜日	時間	場所	内容	講師	参加人数
4	25	木	10:00～12:00	なかやま幸梅園会議室	年間計画、福祉の動向について、介護予防について		4
5	17	金	10:00～12:00	なかやま幸梅園会議室	福祉用具について	アイルズ重見和成	8
6	14	金	10:00～12:00	伊予市	施設見学宅老所かざぐるま	管理者竹中	8
7	13	土	13:30～15:30	くりのみ	脱水予防・熱中症予防	大塚製薬宮内	32
8	22	木	13:30～15:30	地域事務所	認知症予防セミナー	くろだ病院堀口Dr	55
9	14	土	13:30～15:30	くりのみ	土に触れてストレス解消陶芸教室	陶房Kibi梶原	13
10	12	金	10:00～12:00	地域事務所	食べやすい食事について	管理栄養士小川	5
11	9	土	13:30～15:00	くりのみ	口腔ケアについて	坂見歯科坂見Dr	12
12	14	土	13:30～15:00	くりのみ	排泄用品について	カミ商事担当　三好	9
1	16	木	13:30～15:00	地域事務所	体操やリハビリについて	理学療法士竹本	24
2	21	金	13:30～15:00	くりのみ	認知症について愛媛大学医学部付属病院	精神科立花Dr	29
3月は新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止。							

４．認知症相談

目　的:　　認知症高齢者を抱える家族に対し、愛大精神科専門医による総合相談の実施。

実施日:　　月2回程度

月別 / 区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
自宅訪問	6	4	2	2	3	5	3	2	2		1	1	31
来所	2				1	1	4	4		1	2		15
ショートステイ利用中				1									1
ﾃﾞｲｻｰﾋﾞｽ利用中			1							1			2
ケアハウス					2								2
その他	1	2			1	1				1	2		8
合計	9	6	3	3	7	7	7	6	2	3	5	1	59



５．高齢者配食サービス事業

目　的　　訪問による定期的な食事の提供に併せて、高齢者の安否確認を行うことで、当該高齢者等の社会的孤立感を解消し、及び自立支援を図る。

対象者　　①65歳の一人暮らしの者で、身体虚弱等のため調理し食事することが困難である。
②65歳以上の者のみで構成する世帯の世帯主又は世帯員で、当該世帯主又は世帯員のいずれも身体虚弱等のため、調理し食事することが困難である。
③その他の理由（上記に類する具体的な理由がある）

・延べ利用数　　133名

・延べ配食数　　1,504食

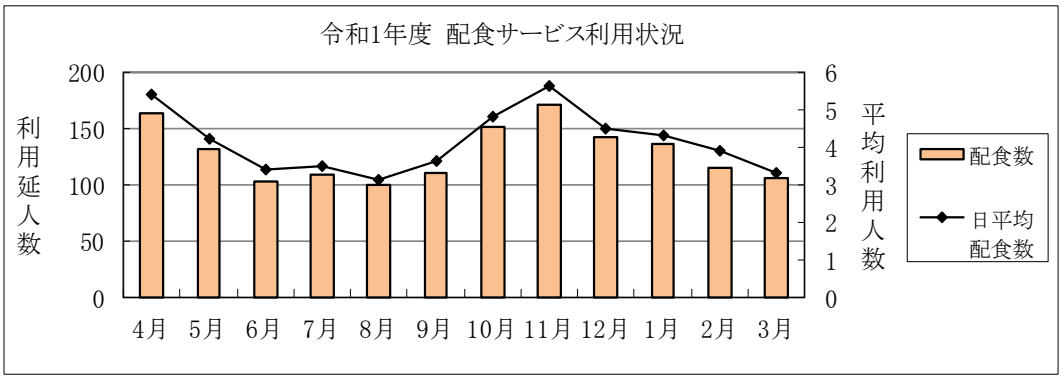
【月別利用人数及び配食数】

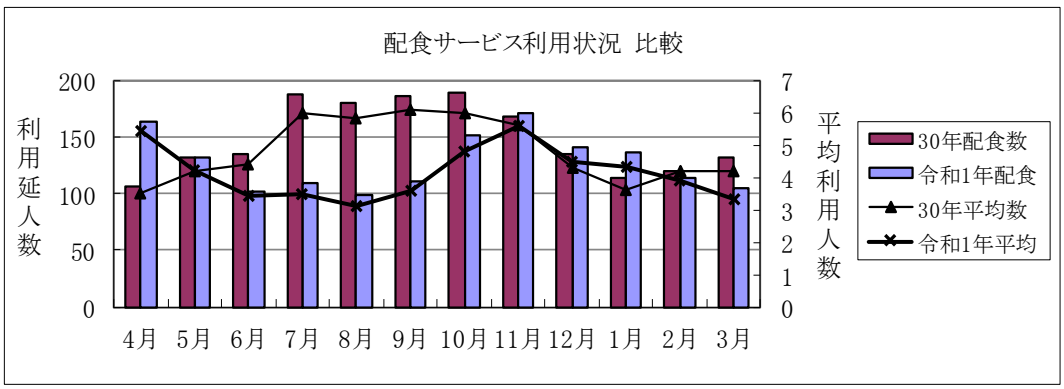
令和1年度

月別	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
配食数	163	131	102	109	99	110	151	170	141	136	114	105	1,504
利用人数	12	11	10	8	9	12	10	13	13	14	11	10	133
日平均配食数	5.4	4.2	3.4	3.5	3.1	3.6	4.8	5.6	4.5	4.3	3.9	3.3	4.1

平成30年度

配食数	106	131	134	187	180	185	189	168	135	114	120	131	1,780
利用人数	10	11	13	14	13	14	13	12	11	9	9	10	139
日平均配食数	3.5	4.2	4.4	6	5.8	6.1	6	5.6	4.3	3.6	4.2	4.2	4.8





６．施設の委託管理
伊予市高齢者共同住居

目　的　　独り暮らしや、高齢者世帯で買い物や生活に不安を感じている方の生活を共同化することにより、高齢者の生活の質を高め健康増進を図り、介護予防を目的とする。

開設年月日　平成12年2月1日

入居定員　　8名

居　室	性 別	入退居状況	日　付	備 考
ふ　　じ				
つ　ば　き				
き き ょ う				
の　ぎ　く	女　　性	退　　居	令和1年8月9日	グループホーム（双海）
な の は な				
り ん ど う	女　　性	退　　居	令和1年6月30日	ケアハウス（双海）
わ か た け				
す　み　れ	女　　性	退　　居	令和1年7月31日	グループホーム（伊予市）

・ヘルパー事業
　週5日（月～金）ヘルパーが来て、入居者と共に昼食作りを行う。
・買い物
　交通の不便さを解消するため、毎週金曜日の午前中にバスを運行し、買い物等に利用する。

中山老人憩いの家

７．中山老人憩いの家自主事業「がんばる会」

目　的　家で閉じこもりがちな、概ね60歳以上の高齢者の心身のリフレッシュ、生きがい作り及び自立生活の支援や社会的交流を図ることで、要支援・要介護状態にならないように予防する。 認知症予防、介護予防を目的とした教室を行う。

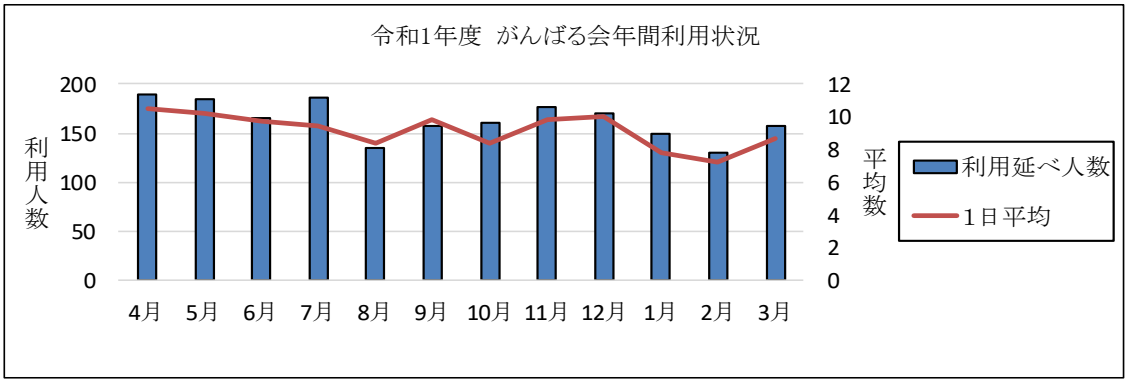
対象者　概ね60歳以上の高齢者

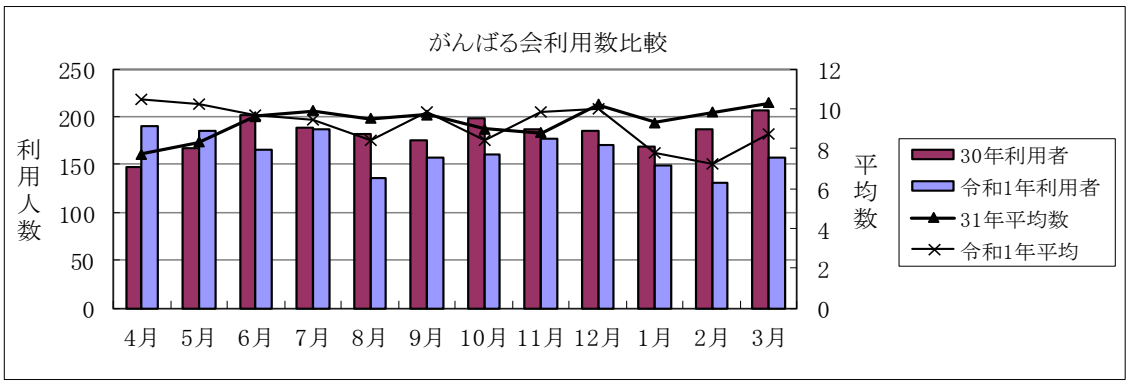
令和1年度

月　別	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
開設日	18	18	17	19	16	16	19	18	17	19	18	18	213
利用延べ人数	190	185	166	186	135	157	160	177	171	149	130	157	1,963
1日平均	10.5	10.2	9.7	9.4	8.4	9.8	8.4	9.8	10	7.8	7.2	8.7	9.2

平成30年

開設日	19	20	21	19	19	18	22	21	18	18	19	20	234
利用延べ人数	148	167	202	189	182	175	199	186	185	169	187	206	2,195
1日平均	7.7	8.3	9.6	9.9	9.5	9.7	9	8.8	10.2	9.3	9.8	10.3	9.3





介護予防・生活支援サービス事業

目 的　要介護（要支援）状態になることを予防し、要介護状態になった場合でも可能な限り自立した日常生活を過ごせるよう支援すること目指す。

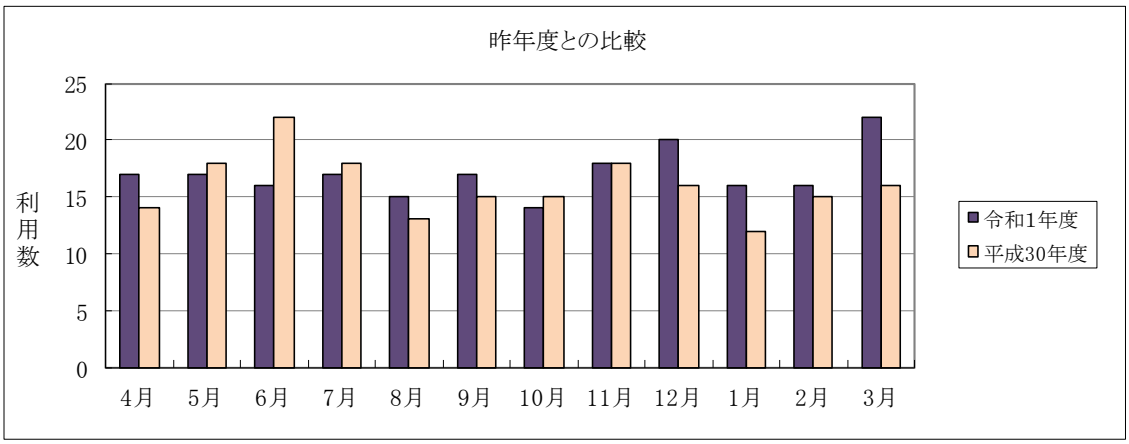
内 容　身体介護を伴わない日常生活上の支援や運動、レクリエーションの提供。

令和1年度

月別 / 項目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
通所型サービスA	17	17	16	17	15	17	14	18	20	16	16	22	205

平成30年度

月別 / 項目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
通所型サービスA	14	18	22	18	13	15	15	18	16	12	15	16	192



8. 地域包括ケア相談窓口設置事業

令和1年度

月別 相談内容	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
介護保険	30	23	32	24	29	27	17	27	35	18	28	8	298
保健福祉 サービス		3	1								3	2	9
権利擁護													0
虐待													0
その他		2	1	4							1		8
合計	30	28	34	28	29	27	17	27	35	18	32	10	315

平成30年度

月別 相談内容	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
介護保険	42	31	20	25	31	25	40	42	39	34	31	30	390
保健福祉 サービス	2	2	6	2			2	2	5	2	4		27
権利擁護													0
虐待													0
その他	14	3		4	10	4	6	4	6	5			56
合計	58	36	26	31	41	29	48	48	50	41	35	30	473

高齢者アセスメントシート作成件数

令和1年度

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
認知症	2	1	2	2	3		3	2	2		1	3	21
見守り	3	2	1	1		4		4	2	4	4	1	26
移動手段 の確保													
交流促進													
買物支援													0
合計	5	3	3	3	3	4	3	6	4	4	5	4	47

平成30年度

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
認知症	3	2	2	3		3	3	2	5	3	3	4	33
見守り	2	2		4	3	1	1	3		1	1		
移動手段 の確保			1										
交流促進													
買物支援													0
合計	5	4	3	7	3	4	4	5	5	4	4	4	52

指定通所介護事業所　佐礼谷

【基本方針】

利用者が自宅において自立した日常生活を営めるよう、必要な機能訓練等を行うことにより、心身、生活機能の維持改善及び向上を目指すと共に、利用者自ら主体的に活動ができるよう計画的かつ、効果的なサービス提供を行う。

【具体的取り組み】

1. 個別援助計画

利用者の心身状況及び、生活課題等のニーズを把握すると共に、各関係機関等と連携を図りながら、利用者及び、家族の希望に沿ったサービスを提供する。

（1）初回訪問時やサービス担当者会議等にて、利用者及び、家族の希望と、利用者の生活全般についてその状態を十分に把握する。

（2）サービスの提供にあたり、居宅サービス計画に基づいたケアプラン（通所介護計画）を立案し、事前に利用者及び、家族に説明し、同意を得る。

（3）定期的なモニタリング（評価）を実施し、より利用者のニーズに沿ったケアプランの実践に努める。

2. 機能訓練

利用者が有する能力を最大限活用しながら意欲的に活動できる訓練プログラムの開発及び、アクティビティ（集団的に行われるレクリエーション、創作活動等の機能訓練）の機能強化を図る。

（1）利用者の希望や、身体状態に適したリハビリメニューを検討し、継続的に実施することにより、身体機能の維持向上を図る。

（2） 調理レクリエーションや洗濯物たたみ等の生活リハビリを利用者の嗜好や状態に合わせて、実践しながらＡＤＬ（日常生活動作）の維持向上に繋げる。

3. 健康管理

利用者の心身状況を確認し、本人及び家族、医療機関と連携を図り、健康維持に努める。また、感染症については、感染症マニュアルに沿った適切な対応を行う。

4. レクリエーション

利用者個々の特性に応じたレクリエーションを検討し、計画的に実施する。

（1）利用者のニーズに応じて、意欲的に参加できるレクリエーションメニューの検討及び、実施方法を工夫し、活動の幅を広げる。

（２）季節感を取り入れた年間行事や外出等を実施すると共に、地域行事等へも積極的に参加することで、社会性の維持向上を目指す。

5. リスク管理

利用者が安全に過ごせるように事故予防に努め、事故発生時の適切な対応及び再発防止を行う。

（１）介護用品や備品、危険箇所の点検を定期的に行い、安全かつ快適に過ごすための介護機器の検討と環境整備を行う。

（２）利用者の情報収集を十分に行い、予測できる事故について家族と共に理解し未然に防ぐ工夫をする。

（３）ヒヤリハット活動を充実させることにより事故予防に繋げる。

（４）事故発生時は、マニュアルに沿った迅速かつ適切な対応を行い、原因を多面的に検証し、再発防止に努める。

6. 防災対策

火災をはじめ、地震、風水害等災害の発生に備え、緊急時における利用者の生命と安全を確保するため、自主防災活動及び、地域防災組織等との連携強化を図る。

（１）火災害等の発生に備えて、状況に応じて迅速かつ、適切な避難誘導が行えるよう、定期的に避難訓練等を実施する。

（２）防災設備については、緊急時に十分機能するよう、日頃から定期的に点検整備を実施する。

（３）地震及び、風水害等発生時対応マニュアルに沿って、自然災害発生時における避難、救護体制の構築を図る。

（４）地域総合防災訓練への参加及び、消防機関、地域防災組織等との連携により地域ぐるみで自主防災機能の強化を図る。

7. 職員教育

質の高いサービスを提供するために、自己研鑽に努め、資質の向上を図る。

（１）園内外で開催される各種研修・勉強会等に参加し、専門的な知識、技術を修得し、業務の適正化及び、効率化に努める。

（２）挨拶、言葉遣い、身だしなみ等、職員としての基本的なマナーを身につけると共に、職員個々のコミュニケーション能力を高め、サービスの質の向上を目指す。

8. 地域交流

地域における行事等への参加や、地区住民との交流、ボランティア等の受け入れを通して、地域コミュニティ機能の充実を図る。

9. 地域貢献

地域の一員である自覚を持ち、理解と信頼が得られるように努めると共に、地域福祉の拠点として開かれた施設を目指す。

（１）地域や学校行事に参加し、交流を図る。

（２）施設の見学や地域に出向いての説明会等を実施することにより、地域の理解と信頼を得られるように努める。

（３）各関係機関と連携しながら地域のニーズを把握し、必要時には相談やサービスに繋げる。

（４）地域住民が抱える福祉ニーズを把握し、これまでに培ってきた福祉サービスに関する専門性やノウハウを提供することで、地域福祉の充実を図る。

【重点目標】

① 新施設での運営に伴い、環境の変化による利用者の不安や、負担の軽減に努めると共に、安全で快適な施設となるよう、必要に応じた業務の見直しを行う。

② 地域に密着した施設となるよう、見学会やサービスの説明会、住民との交流会等を行い、地域からの理解と信頼を得ることで利用者の増加を目指す。

③ 地域住民・利用者家族・行政が参加する運営推進会議を定期的に開催し、提供しているサービス内容等の説明や意見交換等を実施することにより、サービスの質の向上を図る。

④ 医療依存度の高い利用者も安心して利用できるよう、医療機関及び他関連機関と連携し、適切なサービスの提供に努める。

⑤ 少人数ケアにより、利用者個々に配慮し、きめ細かいケアを実施することで、利用者の自立支援を促進し、重度化防止を図ると共に、利用者の特性に応じたケアを柔軟に行う。

⑥ 自然災害に備え、日頃より防災知識を深め利用者にも周知する。また、新しい情報を得ると共に、地域との連携を密にする。緊急時には、情報収集、周囲の観察等を行い、地域防災組織等と連携を図りながら利用者、職員の安全を確保する。

⑦ 利用者の身体状況の測定や栄養スクリーニング等を実施することで、来年度に加算が取れるよう準備・整備をする。

【総合評価】

達成度(%)　　82.8%

＜評価＞

① 85%

環境の変化による大きな混乱は見られなかったため、業務について、大きく変えることは無かった。設備や、トイレの場所など、日常的に使用する物については繰り返し説明することで安全に使用することができた。

② 70%

老人クラブとの交流会を実施することができた。見学会や説明会については、外部に働きかけての開催はできなかったが、施設見学の希望があり、実施することで新規利用にも繋がった。

③ 85%

運営推進会議について、9月に開催することができた。新型コロナウイルスの影響により3月開催の会議は中止し、書面による意見交換を行った。地域住民や、利用者からの意見を聞ける良い機会となった。

④ 100%

地域の医療機関と連携できた。

⑤ 85%

一人一人の体調や状態に応じて、ケアの内容を変えながら対応することができた。また、毎月レクリエーションの予定を立てて実施することができた。

⑥ 85%

火災や風水害について、想定しながら訓練を行うことができた。また、気象予報を基に災害が起きそうな時は、利用の確認や、幸梅園へ避難するなど安全対策を取りながらサービス提供することができた。

⑦ 70%

バーセルインデックス（利用者の身体状況の測定法）の測定や、栄養スクリーニングを実施することにより、加算が取れるように準備を進めていたが、加算要件を満たさず、算定に至らなかった。次年度も引き続き準備を進める。

指定通所介護（介護予防）事業所　佐礼谷

【基本方針】

利用者が自宅において自立した日常生活を営めるよう、必要な機能訓練等を行うことにより、心身、生活機能の維持改善及び向上を目指すと共に、利用者自ら主体的に活動ができるよう計画的かつ、効果的なサービス提供を行う。

【具体的取り組み】

1. 個別援助計画

利用者の心身状況及び、生活課題等のニーズを把握すると共に、各関係機関等と連携を図りながら、利用者及び、家族の希望に沿ったサービスを提供する。

（1）初回訪問時やサービス担当者会議等にて、利用者及び、家族の希望と、利用者の生活全般についてその状態を十分に把握する。

（2）サービスの提供にあたり、居宅サービス計画に基づいたケアプラン（介護予防通所介護計画）を立案し、事前に利用者及び、家族に説明し、同意を得る。

（3）定期的なモニタリング（評価）を実施し、より利用者のニーズに沿ったケアプランの実践に努める。

2. 機能訓練

利用者が有する能力を最大限活用しながら意欲的に活動できる訓練プログラムの開発及び、アクティビティ（集団的に行われるレクリエーション、創作活動等の機能訓練）の機能強化を図る。

（1）利用者の希望や、身体状態に適したリハビリメニューを検討し、継続的に実施することにより、身体機能の維持向上を図る。

（2） 調理レクリエーションや洗濯物たたみ等の生活リハビリを利用者の嗜好や状態に合わせて、実践しながらＡＤＬ（日常生活動作）の維持向上に繋げる。

3. 健康管理

利用者の心身状況を確認し、本人及び家族、医療機関と連携を図り、健康維持に努める。また、感染症については、感染症マニュアルに沿った適切な対応を行う。

4. レクリエーション

利用者個々の特性に応じたレクリエーションを検討し、計画的に実施する。

（1）利用者のニーズに応じて、意欲的に参加できるレクリエーションメニューの検討及び、実施方法を工夫し、活動の幅を広げる。

（２）季節感を取り入れた年間行事や外出等を実施すると共に、地域行事等へも積極的に参加することで、社会性の維持向上を目指す。

5. リスク管理

利用者が安全に過ごせるように事故予防に努め、事故発生時の適切な対応及び再発防止を行う。

（１）介護用品や備品、危険箇所の点検を定期的に行い、安全かつ快適に過ごすための介護機器の検討と環境整備を行う。

（２）利用者の情報収集を十分に行い、予測できる事故について家族と共に理解し未然に防ぐ工夫をする。

（３）ヒヤリハット活動を充実させることにより事故予防に繋げる。

（４）事故発生時は、マニュアルに沿った迅速かつ適切な対応を行い、原因を多面的に検証し、再発防止に努める。

6. 防災対策

火災をはじめ、地震、風水害等災害の発生に備え、緊急時における利用者の生命と安全を確保するため、自主防災活動及び、地域防災組織等との連携強化を図る。

（１）火災害等の発生に備えて、状況に応じて迅速かつ、適切な避難誘導が行えるよう、定期的に避難訓練等を実施する。

（２）防災設備については、緊急時に十分機能するよう、日頃から定期的に点検整備を実施する。

（３）地震及び、風水害等発生時対応マニュアルに沿って、自然災害発生時における避難、救護体制の構築を図る。

（４）地域総合防災訓練への参加及び、消防機関、地域防災組織等との連携により地域ぐるみで自主防災機能の強化を図る。

7. 職員教育

質の高いサービスを提供するために、自己研鑽に努め、資質の向上を図る。

（１）園内外で開催される各種研修・勉強会等に参加し、専門的な知識、技術を修得し、業務の適正化及び、効率化に努める。

（２）挨拶、言葉遣い、身だしなみ等、職員としての基本的なマナーを身につけると共に、職員個々のコミュニケーション能力を高め、サービスの質の向上を目指す。

8. 地域交流

地域における行事等への参加や、地区住民との交流、ボランティア等の受け入れを通して、地域コミュニティ機能の充実を図る。

9. 地域貢献

地域の一員である自覚を持ち、理解と信頼が得られるように努めると共に、地域福祉の拠点として開かれた施設を目指す。

（１）地域や学校行事に参加し、交流を図る。

（２）施設の見学や地域に出向いての説明会等を実施することにより、地域の理解と信頼を得られるように努める。

（３）各関係機関と連携しながら地域のニーズを把握し、必要時には相談やサービスに繋げる。

（４）地域住民が抱える福祉ニーズを把握し、これまでに培ってきた福祉サービスに関する専門性やノウハウを提供することで、地域福祉の充実を図る。

【重点目標】

① 新施設での運営に伴い、環境の変化による利用者の不安や、負担の軽減に努めると共に、安全で快適な施設となるよう、必要に応じた業務の見直しを行う。

② 地域に密着した施設となるよう、見学会やサービスの説明会、住民との交流会等を行い、地域からの理解と信頼を得ることで利用者の増加を目指す。

③ 地域住民・利用者家族・行政が参加する運営推進会議を定期的に開催し、提供しているサービス内容等の説明や意見交換等を実施することにより、サービスの質の向上を図る。

④ 少人数ケアにより、利用者個々に配慮し、きめ細かいケアを実施することで、利用者の自立支援を促進し、重度化防止を図ると共に、利用者の特性に応じたケアを柔軟に行う。

⑤ 自然災害に備え、日頃より防災知識を深め利用者にも周知する。また、新しい情報を得ると共に、地域との連携を密にする。緊急時には、情報収集、周囲の観察等を行い、地域防災組織等と連携を図りながら利用者、職員の安全を確保する。

【総合評価】

達成度(%)　　82.0%

＜評価＞

① 85%

環境の変化による大きな混乱は見られなかったため、業務について、大きく変えることは無かった。設備や、トイレの場所など、日常的に使用する物については繰り返し説明することで安全に使用することができた。

② 70%

老人クラブとの交流会を実施することができた。見学会や説明会については、外部に働きかけての開催はできなかったが、施設見学の希望があり、実施することで新規利用にも繋がった。

③ 85%

運営推進会議について、9 月に開催することができた。新型コロナウイルスの影響により 3 月開催の会議は中止し、書面による意見交換を行った。地域住民や、利用者からの意見を聞ける良い機会となった。

④ 85%

一人一人の体調や状態に応じて、ケアの内容を変えながら対応することができた。また、毎月レクリエーションの予定を立てて実施することができた。

⑤ 85%

火災や風水害について、想定しながら訓練を行うことができた。また、気象予報を基に災害が起きそうな時は、利用の確認や、幸梅園へ避難するなど安全対策を取りながらサービス提供することができた。

令和１年度

指定通所介護事業所 佐 礼 谷 利用実績

１．事業内容　区分: 通所介護〔地域密着型〕利用定員 18名

体制: 入浴介助体制〔あり〕加算

: 送迎体制　〔あり〕

２．開所日数　:　313　日　(稼働率:60.0%)

３．利用実績

(単位:人)

項目＼月		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合 計
登録人数		41	40	42	40	36	36	34	35	35	35	37	34	445
実利用人数		40	36	34	32	30	30	31	34	33	28	33	34	395
介護度別利用者数	要支援1･2	24	21	21	31	29	29	32	26	32	33	36	46	360
	要介護1	75	55	64	64	58	70	59	61	60	63	66	69	764
	要介護2	97	121	95	95	100	86	92	82	93	71	64	64	1,060
	要介護3	52	68	56	57	51	36	48	74	62	55	80	75	714
	要介護4	48	43	33	37	26	27	35	35	23	21	20	21	369
	要介護5	10	8	9	9	10	9	10	9	10	9	10	13	116
	合 計	306	316	278	293	274	257	276	287	280	252	276	288	3,383
開所日数		26	27	25	27	27	25	27	26	26	26	25	26	313
1日平均		11.8	11.7	11.1	10.9	10.1	10.3	10.2	11.0	10.8	9.7	11.0	11.1	10.8
延べ入浴者数		207	220	197	201	192	172	197	199	203	178	205	200	2,371
平均入浴者数		6.9	7.1	6.6	6.5	6.2	5.7	6.4	6.6	6.5	5.7	7.3	6.5	6.5

４．要介護度別利用者状況

介護度＼月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合 計
要支援	6	4	4	5	5	5	5	5	5	5	6	7	62
要介護1	12	8	7	6	6	7	6	8	7	6	8	8	89
要介護2	11	12	12	12	11	11	10	9	10	8	7	7	120
要介護3	5	6	6	4	4	3	5	7	6	5	8	8	67
要介護4	5	5	4	4	3	3	4	4	4	3	3	3	45
要介護5	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	12
合　計	40	36	34	32	30	30	31	34	33	28	33	34	395

５．介護度別利用者年齢構成

令和2年3月31日

介護度	要支援		要介護１		要介護２		要介護３		要介護４		要介護５		合計
性別 / 年齢階層	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	
65才～69才													
70才～79才		1				1							2
80才～89才		2	2	3	3	3		3		2			18
90才～	2	2	1	2			3	2		1		1	14
総計	7		8		7		8		3		1		34

６．地域別利用者数

月 / 地域名	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
佐礼谷	28	25	26	21	22	22	23	23	22	20	23	24	279
中山	8	8	4	7	4	4	4	7	7	5	7	7	72
双海	4	3	4	4	4	4	4	4	4	3	3	3	44
合計	40	36	34	32	30	30	31	34	33	28	33	34	395
佐礼谷割合(%)	70.0	69.4	76.5	65.6	73.3	73.3	74.2	67.6	66.7	71.4	69.7	70.6	70.6

7．年間利用状況推移

月 / 年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
平成27年度	224	241	246	246	252	248	235	242	241	188	207	217	2,787
平成28年度	245	227	214	213	237	231	235	234	253	253	227	268	2,837
平成29年度	253	261	271	283	257	307	323	307	285	251	244	273	3,315
平成30年度	307	341	352	320	301	310	367	339	312	266	245	303	3,763
令和1年度	306	316	278	293	274	257	276	287	280	252	276	288	3,383

8.事故状況　（医療機関受診を伴う事故）

No.	月　日	性別	事故内容	発生場所	事故状況	対応・処置内容等
1	6月1日	女	その他	くりのみ作業所	餅まきの餅が左目に当たり出血あり	視力・眼球に変わりなし 目薬の処方あり

事故発生状況　2019　通所介護事業所 佐礼谷

発生場所＼発生内容	受診の有無	転倒	転落	ずり落ち	衝突	誤嚥	誤薬	異食	離園	表皮剥離	利用者同士のトラブル	その他	合計
ホール	有												
	無												
居 室	有												
	無												
食 堂	有												
	無												
トイレ	有												
	無												
浴 室	有												
	無											1	1
デイルーム（娯楽室）	有												
	無						2					1	3
施設外	有											1	1
	無											1	1
その他	有												
	無	1		4									5
小 計	有											1	1
	無	1		4			2					3	10
合 計		1		4			2					4	11

（評価）

昼食後にソファーやベッドで休まれることが多く、見守りが十分にできていないことが原因の事故が発生した。日によって体調や状況が変わることを考慮しながら、ソファーやベッドで休むことで起こる事故についても想定しながら対応したい。

ヒヤリハット件数　　6件

9.苦情発生の状況

No.	月　日	性別	苦情内容	苦情状況	解決内容等
1	5月 27日	女	ケア内容に関わる事項	パウチの裏のテープが剥がされていない状態で貼られていた。1回貼ったのに上手くいかず、直ぐに剥いで貼り直したと言っていた。パウチは1枚1500円するのに、容易に剥いでしまうのは困る。 幸梅園の看護師はそんなにレベルが低いのですか？	■パウチに関しては大切に取り扱い、貼り方や貼る際に、尿等で貼れなかった場合や、何らかの理由がある場合には相談員の今井よりメールでお知らせします。 ■看護師が手順を共有する為のマニュアルを再度作成、何か変わった事があれば連携体制を密にとり対応させて頂きます。

指定通所介護事業所　野中

【基本方針】

利用者が自宅において自立した日常生活を営めるよう、必要な機能訓練等を行うことにより、心身、生活機能の維持改善及び向上を目指すと共に、利用者自ら主体的に活動ができるよう計画的かつ、効果的なサービス提供を行う。

【具体的取り組み】

1. 個別援助計画

利用者の心身状況及び、生活課題等のニーズを把握すると共に、各関係機関等と連携を図りながら、利用者及び、家族の希望に沿ったサービスを提供する。

（1）初回訪問時やサービス担当者会議等にて、利用者及び、家族の希望と、利用者の生活全般についてその状態を十分に把握する。

（2）サービスの提供にあたり、居宅サービス計画に基づいたケアプラン（通所介護計画）を立案し、事前に利用者及び、家族に説明し、同意を得る。

（3）定期的なモニタリング（評価）を実施し、より利用者のニーズに沿ったケアプランの実践に努める。

2. 機能訓練

利用者が有する能力を最大限活用しながら意欲的に活動できる訓練プログラムの開発及び、アクティビティ（集団的に行われるレクリエーション、創作活動等の機能訓練）の機能強化を図る。

（1）利用者の希望や、身体状態に適したリハビリメニューを検討し、継続的に実施することにより、身体機能の維持向上を図る。

（2）おやつ作りや洗濯物たたみ等の生活リハビリを利用者の嗜好や状態に合わせて、実践しながらＡＤＬ（日常生活動作）の維持向上に繋げる。

3. 健康管理

利用者の心身状況を確認し、本人及び家族、医療機関と連携を図り、健康維持に努める。また、感染症については、感染症マニュアルに沿った適切な対応を行う。

4. レクリエーション

利用者個々の特性に応じたレクリエーションを検討し、計画的に実施する。

（1）利用者のニーズに応じて、意欲的に参加できるレクリエーションメニューの検討及び、実施方法を工夫し、活動の幅を広げる。

（2）季節感を取り入れた年間行事や外出等を実施すると共に、地域行事等へも積極的に参加することで、社会性の維持向上を目指す。

5. リスク管理

利用者が安全に過ごせるように事故予防に努め、事故発生時の適切な対応及び再発防止を行う。

（1）介護用品や備品、危険箇所の点検を定期的に行い、安全かつ快適に過ごすための介護機器の検討と環境整備を行う。

（2）利用者の情報収集を十分に行い、予測できる事故について家族と共に理解し未然に防ぐ工夫をする。

（3）ヒヤリハット活動を充実させることにより事故予防に繋げる。

（4）事故発生時は、マニュアルに沿った迅速かつ適切な対応を行い、原因を多面的に検証し、再発防止に努める。

6. 防災対策

火災をはじめ、地震、風水害等災害の発生に備え、緊急時における利用者の生命と安全を確保するため、自主防災活動及び、地域防災組織等との連携強化を図る。

（1）火災害等の発生に備えて、状況に応じて迅速かつ、適切な避難誘導が行えるよう、定期的に避難訓練等を実施する。

（2）防災設備については、緊急時に十分機能するよう、日頃から定期的に点検整備を実施する。

（3）地震及び、風水害等発生時対応マニュアルに沿って、自然災害発生時における避難、救護体制の構築を図る。

（4）地域総合防災訓練への参加及び、消防機関、地域防災組織等との連携により地域ぐるみで自主防災機能の強化を図る。

7. 職員教育

質の高いサービスを提供するために、自己研鑽に努め、資質の向上を図る。

（1）園内外で開催される各種研修・勉強会等に参加し、専門的な知識、技術を修得し、業務の適正化及び、効率化に努める。

（2）挨拶、言葉遣い、身だしなみ等、職員としての基本的なマナーを身につけると共に、職員個々のコミュニケーション能力を高め、サービスの質の向上を目指す。

8. 地域交流

地域における行事等への参加や、地区住民との交流、ボランティア等の受け入れを通して、地域コミュニティ機能の充実を図る。

9. 地域貢献

関係機関と連携して、地域社会の中で生活していくための課題を発見し、地域における様々なニーズに柔軟に対応していく。

（１）地域行事に利用者と一緒に参加する。

（２）各関係機関、居宅介護支援センター、在宅支援センターと連携を図り、在宅生活を継続していく上で、サービスを必要としている人に対し早期に対応する。また、個々のニーズに対し、柔軟に対応する。

（３）地域住民が抱える福祉ニーズを把握し、これまでに培ってきた福祉サービスに関する専門性やノウハウを提供することで、地域福祉の充実を図る。

【重点目標】

① 利用者の心身機能に応じた活動内容（手芸・園芸・音楽・運動・喫茶等）の選択肢を増やし、内容を充実させることで各利用者のニーズに応える。また、外出・調理については利用者からの要望も多いことから、今後も計画的に実施する。

② 利用者の身体状況の測定や栄養スクリーニング等を実施することで、来年度に加算が取れるよう準備・整備をする。

③ 地域の主催する催し物等に積極的に参加し、地域の活動に貢献をすることで、交流の推進を図り、事業所に対する理解や、コミュニティ機能の充実及び、利用者の拡大に繋げる。

④ ミニデイサービスや地域の集まりに定期的に参加し、介護に必要な知識や認知症に関する勉強会等を実施すると共に、情報交換を行い、要介護状態や認知症になっても暮らせる地域作りへの協力、連携体制の構築を図る。

⑤ 地域住民・利用者家族・行政が参加する運営推進会議を定期的に開催し、提供しているサービス内容等を明らかにすることにより、地域に開かれたサービスとすることで、サービスの質の確保を図る。

⑥ 医療依存度の高い利用者もサービスを受けられるようサービス内容を検討し、医療機関との連携による情報の共有を図り、円滑な受け入れができるよう整備する。

⑦ 定期的に内部研修を実施することで職員のスキルアップを目指すと共に、外部研修にも積極的に参加し、多様な技術・知識を得ることで、質の高いサービス提供に繋げる。

⑧ 自然災害等、緊急時に備えて地元消防団及び、防災組織等と具体的な協力、連携体制の構築を図る。

【総合評価】

達成度(%)　　85.6%

＜評価＞

① 95%

園芸や工作等継続的に行うことで、意欲・自発性の向上に繋がった。調理レク・外出に関しては、利用者の希望を確認しながらの実施ができた。

② 80%

バーセルインデックスの測定や、栄養スクリーニングを実施することにより、加算が取れるように準備を進めていたが、加算要件を満たさず、算定に至らなかった。次年度も引き続き加算が取れるように準備をして行く。

③ 95%

地域の盆踊りや運動会に参加することで地域住民との交流が図れた。また、定期的に総会等に参加することで老人クラブとも交流が図れた。

④ 90%

継続的に地域で実施されているミニデイサービスへの参加ができた。交流を持つことで、新規利用者の増加に繋がった。

⑤ 90%

定期的に運営推進会議を開催することで、地域の各役員と情報交換ができると共に、事業所から情報発信し、事業運営に関する協力体制の構築に繋がった。新型コロナウイルスの影響により3月開催の会議は中止し、書面による意見交換を行った。また、利用者・家族に向けたアンケートを実施することで、満足度の確認ができた。事業所での活動や職員の対応等について、「概ね満足」という意見が多くあった。

⑥ 85%

医療的処置が必要な利用者でも、医療機関と連携しながら通常通りの受け入れができた。必要な処置や対応をすることで、在宅生活の維持に繋がった。

⑦ 80%

外部研修や園内の勉強会に参加することで、知識・技術の向上に繋がった。

⑧ 70%

災害時に地域住民や民生委員と連携しながら、円滑な避難ができるよう協力体制の構築ができた。今後は、地域との合同訓練や、消防団との連携の構築に取り組む必要がある。

指定通所介護（介護予防）事業所　野中

【基本方針】

利用者が自宅において自立した日常生活を営めるよう、必要な機能訓練等を行うことにより、心身、生活機能の維持改善及び向上を目指すと共に、利用者自ら主体的に活動ができるよう計画的かつ、効果的なサービス提供を行う。

【具体的取り組み】

1. 個別援助計画

利用者の心身状況及び、生活課題等のニーズを把握すると共に、各関係機関等と連携を図りながら、利用者及び、家族の希望に沿ったサービスを提供する。

（１）初回訪問時やサービス担当者会議等にて、利用者及び、家族の希望と、利用者の生活全般についてその状態を十分に把握する。

（２）サービスの提供にあたり、居宅サービス計画に基づいたケアプラン（介護予防通所介護計画）を立案し、事前に利用者及び、家族に説明し、同意を得る。

（３）定期的なモニタリング（評価）を実施し、より利用者のニーズに沿ったケアプランの実践に努める。

2. 機能訓練

利用者が有する能力を最大限活用しながら意欲的に活動できる訓練プログラムの開発及び、アクティビティ（集団的に行われるレクリエーション、創作活動等の機能訓練）の機能強化を図る。

（１）利用者の希望や、身体状態に適したリハビリメニューを検討し、継続的に実施することにより、身体機能の維持向上を図る。

（２）おやつ作りや洗濯物たたみ等の生活リハビリを利用者の嗜好や状態に合わせて、実践しながらＡＤＬ（日常生活動作）の維持向上に繋げる。

3. 健康管理

利用者の心身状況を確認し、本人及び家族、医療機関と連携を図り、健康維持に努める。また、感染症については、感染症マニュアルに沿った適切な対応を行う。

4. レクリエーション

利用者個々の特性に応じたレクリエーションを検討し、計画的に実施する。

（１）利用者のニーズに応じて、意欲的に参加できるレクリエーションメニューの検討及び、実施方法を工夫し、活動の幅を広げる。

（２）季節感を取り入れた年間行事や外出等を実施すると共に、地域行事等へも積極的に参加することで、社会性の維持向上を目指す。

5. リスク管理

利用者が安全に過ごせるように事故予防に努め、事故発生時の適切な対応及び再発防止を行う。

（１）介護用品や備品、危険箇所の点検を定期的に行い、安全かつ快適に過ごすための介護機器の検討と環境整備を行う。

（２）利用者の情報収集を十分に行い、予測できる事故について家族と共に理解し未然に防ぐ工夫をする。

（３）ヒヤリハット活動を充実させることにより事故予防に繋げる。

（４）事故発生時は、マニュアルに沿った迅速かつ適切な対応を行い、原因を多面的に検証し、再発防止に努める。

6. 防災対策

火災をはじめ、地震、風水害等災害の発生に備え、緊急時における利用者の生命と安全を確保するため、自主防災活動及び、地域防災組織等との連携強化を図る。

（１）火災害等の発生に備えて、状況に応じて迅速かつ、適切な避難誘導が行えるよう、定期的に避難訓練等を実施する。

（２）防災設備については、緊急時に十分機能するよう、日頃から定期的に点検整備を実施する。

（３）地震及び、風水害等発生時対応マニュアルに沿って、自然災害発生時における避難、救護体制の構築を図る。

（４）地域総合防災訓練への参加及び、消防機関、地域防災組織等との連携により地域ぐるみで自主防災機能の強化を図る。

7. 職員教育

質の高いサービスを提供するために、自己研鑽に努め、資質の向上を図る。

（１）園内外で開催される各種研修・勉強会等に参加し、専門的な知識、技術を修得し、業務の適正化及び、効率化に努める。

（２）挨拶、言葉遣い、身だしなみ等、職員としての基本的なマナーを身につけると共に、職員個々のコミュニケーション能力を高め、サービスの質の向上を目指す。

8. 地域交流

地域における行事等への参加や、地区住民との交流、ボランティア等の受け入れを通して、地域コミュニティ機能の充実を図る。

9. 地域貢献

関係機関と連携して、地域社会の中で生活していくための課題を発見し、地域における様々なニーズに柔軟に対応していく。

（1）地域行事に利用者と一緒に参加する。

（2）各関係機関、居宅介護支援センター、在宅支援センターと連携を図り、在宅生活を継続していく上で、サービスを必要としている人に対し早期に対応する。また、個々のニーズに対し、柔軟に対応する。

（3）地域住民が抱える福祉ニーズを把握し、これまでに培ってきた福祉サービスに関する専門性やノウハウを提供することで、地域福祉の充実を図る。

【重点目標】

① 利用者の心身機能に応じた活動内容（手芸・園芸・音楽・運動・喫茶等）の選択肢を増やし、内容を充実させることで各利用者のニーズに応える。また、外出・調理については利用者からの要望も多いことから、今後も計画的に実施する。

② 地域の主催する催し物等に積極的に参加し、地域の活動に貢献をすることで、交流の推進を図り、事業所に対する理解や、コミュニティ機能の充実及び、利用者の拡大に繋げる。

③ ミニデイサービスや地域の集まりに定期的に参加し、介護に必要な知識や認知症に関する勉強会等を実施すると共に、情報交換を行い、要介護状態や認知症になっても暮らせる地域作りへの協力、連携体制の構築を図る。

④ 定期的に内部研修を実施することで職員のスキルアップを目指すと共に、外部研修にも積極的に参加し、多様な技術・知識を得ることで、質の高いサービス提供に繋げる。

⑤ 自然災害等、緊急時に備えて地元消防団及び、防災組織等と具体的な協力、連携体制の構築を図る。

【総合評価】

達成度(%)　　86.0%

＜評価＞

① 95%

園芸や工作等継続的に行うことで、意欲・自発性の向上に繋がった。調理レク・外出に関しては、利用者の希望を確認しながらの実施ができた。

② 95%

地域の盆踊りや運動会に参加することで地域住民との交流が図れた。また、定期的に総会等に参加することで老人クラブとも交流が図れた。

③ 90%

継続的に地域で実施されているミニデイサービスへの参加ができた。交流を持つことで、新規利用者の増加に繋がった。

④ 80%

外部研修や園内の勉強会に参加することで、知識・技術の向上に繋がった。

⑤ 70%

災害時に地域住民や民生委員と連携しながら、円滑な避難ができるよう協力体制の構築ができた。今後は、地域との合同訓練や、消防団との連携の構築に取り組む必要がある。

令和1年度

指定通所介護事業所 野 中 利用実績

１．事業内容　区分: 通所介護〔単独型〕利用定員 16名
体制: 入浴介助体制〔あり〕加算
: 送迎体制　〔あり〕

２．開所日数　: 366 日　(稼働率:62.9%)

３．利用実績

(単位:人)

項目＼月		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合 計
登録人数		35	35	38	39	39	41	41	41	40	39	39	39	466
実利用人数		35	34	38	38	37	39	36	35	33	32	34	35	426
介護度別利用者数	要支援1･2	57	59	55	61	64	60	61	49	40	43	43	42	634
	要介護1	121	120	100	108	96	108	115	94	99	105	125	125	1,316
	要介護2	61	66	83	75	62	59	68	48	40	28	32	60	682
	要介護3	34	33	41	46	38	47	44	37	29	38	52	54	493
	要介護4	45	43	37	55	48	46	59	45	50	46	40	42	556
	要介護5													
	合 計	318	321	316	345	308	320	347	273	258	260	292	323	3,681
1日平均		10.6	10.4	10.5	11.1	9.9	10.7	11.2	9.1	8.3	8.4	10.4	10.4	10.1
月～土曜日平均		11.8	11.4	12.1	12.3	10.9	11.8	12.2	10.0	9.5	9.3	10.9	11.8	11.2
日曜日平均		2.5	3.5	2.8	4.3	3.5	5.0	4.5	3.0	2.2	2.0	4.0	3.4	3.4
延べ入浴者数		213	219	232	244	250	243	244	193	208	200	234	241	2,721
平均入浴者数		7.1	7.1	7.7	7.9	8.1	8.1	7.9	6.4	6.7	6.5	8.1	7.8	7.4
野中地区の利用者数		144	155	156	173	156	159	114	128	120	119	122	163	1,709
野中地区の利用者割合		45%	48%	49%	50%	51%	50%	33%	47%	47%	46%	42%	50%	46%

４．要介護度別利用者状況

介護度＼月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合 計
要支援	9	9	10	10	10	10	9	7	6	7	7	6	100
要介護1	13	13	12	12	13	15	13	13	13	11	12	14	154
要介護2	4	4	6	5	5	5	5	5	5	4	4	4	56
要介護3	3	3	5	5	5	5	5	6	5	6	7	7	62
要介護4	6	5	5	6	4	4	4	4	4	4	4	4	54
要介護5													
合　計	35	34	38	38	37	39	36	35	33	32	34	35	426

５．介護度別利用者年齢構成

令和2年3月31日

介護度	要支援		要介護１		要介護２		要介護３		要介護４		要介護５		合計
性別 / 年齢階層	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	
65才～69才							1						1
70才～79才		1		2						1			4
80才～89才		4	4	4	1	1		4		1			19
90才～		1	1	3	1	1		2		2			11
総計	6		14		4		7		4				35

６．年間利用状況推移

月 / 年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
平成27年度	234	257	265	262	236	231	239	219	220	158	211	210	2,742
平成28年度	204	232	211	262	264	243	243	221	213	202	194	211	2,700
平成29年度	207	220	238	245	231	228	226	232	230	226	207	276	2,766
平成30年度	273	306	299	320	368	327	368	344	340	310	298	310	3,863
令和1年度	318	321	316	345	308	320	347	273	258	260	292	323	3,681

７.事故発生の状況　（医療機関受診を伴う事故）

No.	月　日	性別	事故内容	発生場所	事故状況	対応・処置内容等
1	9月5日	男	転倒	自宅	帰宅の際に、自宅の前の急な坂を歩いている時に、ふらつき転倒した。転倒時に身体を支えたので頭部打撲は防げた	受診し、表皮剥離部はテープで固定しガーゼ保護をした。骨については異常なかった。化膿止めが処方され定期的に受診し消毒をすることとなった

事故発生状況　2019　通所介護事業所 野中

発生場所＼発生内容	受診の有無	転倒	転落	ずり落ち	衝突	誤嚥	誤薬	異食	離園	表皮剥離	利用者同士のトラブル	その他	合計
ホール	有												
	無												
居 室	有												
	無												
食 堂	有												
	無												
トイレ	有												
	無												
浴 室	有												
	無	1								1			2
デイルーム（娯楽室）	有												
	無	1					3						4
施設外	有	1											1
	無												
その他	有												
	無											1	1
小 計	有	1											1
	無	2					3			1		1	7
合 計		3					3			1		1	8

（評価）

誤薬や薬の飲み忘れ等の服薬に関する事故が３件発生した。確認不足や思い込みによる配薬のミスが原因と考えられる。今後は、内容が変更した際には複数の職員で内容を確認し、誤薬や飲み忘れがないように対応していく必要がある。

ヒヤリハット　10件

８.苦情発生の状況

No.	月　日	性別	苦情内容	苦情状況	解決内容等
1	5月28日	女	服薬に関する不備・報告、対応の不備	家族より報告・お願いがあった通りに服薬ができておらず、服薬の不備に関する報告もできていなかった	家族より服薬に関する依頼があった際には、一人で判断・対応するのではなく、相談員も含めて確認をする。内容が分からない時には必ず家族に確認をする

短期入所生活介護事業所　野中

【基本方針】

利用者及び、その家族のニーズや課題の把握に努め、利用者の有する能力に応じた日常生活を営むことができるよう、サービスを提供する。また、各関連機関との連携を図りながら、利用者の心身機能の維持向上と家族の身体的・精神的負担を軽減することにより、在宅生活が継続できるよう支援する。

【具体的取り組み】

1. 個別援助計画

利用者の心身状況及び、生活課題等のニーズを把握すると共に、各関係機関等と連携を図りながら、利用者及び、家族の希望に沿ったサービスを提供する。

（1）初回訪問時やサービス担当者会議等にて、利用者及び、家族の希望と、利用者の生活全般についてその状態を十分に把握する。

（2）サービスの提供にあたり、居宅サービス計画に基づいたケアプラン（短期入所生活介護計画）を立案し、事前に利用者及び、家族に説明し、同意を得る。

（3）定期的なモニタリング(評価)を実施し、より利用者のニーズに沿ったケアプランの実践に努める。

2. 機能訓練

利用者の自立を支援し、機能の維持向上を図るため、機能訓練を計画的かつ、継続的に実施する。

（1）利用者の心身状況及び生活リズムに応じて、日常生活に必要な機能を維持するためのリハビリを行う。

（2）利用者個々の生活史を考慮したレクリエーション活動を提供すると共に、経過や効果等について検証し、在宅生活や関連事業所でのケアに繋げる。

3. 健康管理

生活環境の変化による体調不良、混乱を防止するために、必要な健康管理体制を整え、適切な対応を行う。

（1）サービスの利用毎に、利用者の心身状況を確認し、本人及び家族、医療機関と連携を図り、健康管理を行う。

（2）感染症対策については、感染症マニュアルに沿って適切に対応し、予防に努め、発生時には蔓延、拡大の防止を図る。

4. 環境整備

生活場所の変化による混乱が生じる可能性があることを説明し、情報収集することにより、できる限り在宅生活に近い環境の整備を行う。また、利用に際しては、事業所での居室環境について説明を行い、同意を得る。

5. リスク管理

利用者が安全に過ごせるよう、事故予防に努め、事故発生時の適切な対応及び再発防止を行う。

（１）介護用品や備品、危険箇所の点検を定期的に行い、安全かつ快適に過ごすための介護機器の検討と環境整備を行う。

（２）利用者の情報収集を十分に行い、予測できる事故について家族と共に理解し未然に防ぐ工夫をする。

（３）ヒヤリハット活動を充実させることにより事故予防に繋げる。

（４）事故発生時は、マニュアルに沿った迅速かつ適切な対応を行い、原因を多面的に検証し、再発防止に努める。

6. 防災対策

火災をはじめ、地震、風水害等災害の発生に備え、緊急時における利用者の生命と安全を確保するため、自主防災活動及び、地域防災組織との連携強化を図る。

（１）火災害等の発生に備えて、状況に応じて迅速かつ、適切な避難誘導が行えるよう、定期的に避難訓練等を実施する。

（２）防災設備については、緊急時に十分機能するよう、日頃から定期的に点検整備を実施する。

（３）地震及び、風水害等発生時対応マニュアルに沿って、自然災害発生時における避難、救護体制の構築を図る。

（４）地域総合防災訓練への参加及び、消防機関、地域防災組織等との連携により地域ぐるみで自主防災機能の強化を図る。

7. 職員教育

質の高いサービスを提供するために、自己研鑽に努め、資質の向上を図る。

（１）園内外で開催される各種研修・勉強会等に参加し、専門的な知識、技術を修得し、業務の適正化及び、効率化に努める。

（２）挨拶、言葉遣い、身だしなみ等、職員としての基本的なマナーを身につけると共に、職員個々のコミュニケーション能力を高め、サービスの質の向上を目指す。

8. 地域交流

地域における行事等への参加や、地区住民との交流、ボランティア等の受け入れを通じて、地域コミュニティ機能の充実を図る。

9. 地域貢献

関係機関と連携して、地域社会の中で生活していくための課題を発見し、地域における様々なニーズに柔軟に対応していく。

（1）地域行事に利用者と一緒に参加する。

（2）各関係機関、居宅介護支援センター、在宅支援センターと連携を図り、在宅生活を継続していく上で、サービスを必要としている人に対し早期に対応する。また、個々のニーズに対し、柔軟に対応する。

（3）地域住民が抱える福祉ニーズを把握し、これまでに培ってきた福祉サービスに関する専門性やノウハウを提供することで、地域福祉の充実を図る。

【重点目標】

① 夜間帯の様子など、生活全般について細かく観察することで、認知症等をはじめとする様々な生活課題に対して、ケアの検討や環境整備等に取り組み精神安定を図る。

② 利用者の心身機能に応じた活動内容（手芸・園芸・音楽・運動・喫茶等）の選択肢を増やし、内容を充実させることで各利用者のニーズに応える。また、外出・調理については利用者からの要望も多いことから、今後も計画的に実施する。

③ 地域の主催する催し物等に積極的に参加し、地域の活動に貢献をすることで、交流の推進を図り、事業所に対する理解や、コミュニティ機能の充実及び、利用者の拡大に繋げる。

④ ミニデイサービスや地域の集まりに定期的に参加し、介護に必要な知識や認知症に関する勉強会等を実施すると共に、情報交換を行い、要介護状態や認知症になっても暮らせる地域作りへの協力、連携体制の構築を図る。

⑤ 医療依存度の高い利用者もサービスを受けられるようサービス内容を検討し、医療機関との連携による情報の共有を図り、円滑な受け入れができるよう整備する。

⑥ 定期的に内部研修を実施することで職員のスキルアップを目指すと共に、外部研修にも積極的に参加し、多様な技術・知識を得ることで、質の高いサービス提供に繋げる。

⑦ 自然災害等、緊急時に備えて地元消防団及び、防災組織等と具体的な協力、連携体制の構築を図る。

【総合評価】

達成度(%)　　85.7%

＜評価＞

① 85%

生活全般の状態を観察し、生活課題を把握することで、個別の対応に繋がった。また、事業所間での情報の共有もできた。

② 95%

園芸や工作等継続的に行うことで、意欲・自発性の向上に繋がった。調理レク・外出に関しては、利用者の希望を確認しながらの実施ができた。

③ 95%

地域の盆踊りや運動会に参加することで地域住民との交流が図れた。また、定期的に総会等に参加することで老人クラブとも交流が図れた。

④ 90%

継続的に地域で実施されているミニデイサービスへの参加ができた。交流を持つことで、新規利用者の増加に繋がった。

⑤ 85%

医療的処置が必要な利用者でも、医療機関と連携しながら通常通りの受け入れができた。必要な処置や対応をすることで、在宅生活の維持に繋がった。

⑥ 80%

外部研修や園内の勉強会に参加することで、知識・技術の向上に繋がった。

⑦ 70%

災害時に地域住民や民生委員と連携しながら、円滑な避難ができるよう協力体制の構築ができた。今後は、地域との合同訓練や、消防団との連携の構築に取り組む必要がある。

短期入所生活介護（介護予防）事業所　野中

【基本方針】

利用者の生活課題や家族の抱える様々な問題やニーズを的確に把握すると共に、各関係機関及び、地域との連携を強化して利用者の精神的安定と身体機能の維持向上を目指した介護予防サービスを行う。

【具体的取り組み】

1. 個別援助計画

利用者の心身状況及び、生活課題等のニーズを把握すると共に、各関係機関等と連携を図りながら、利用者及び、家族の希望に沿ったサービスを提供する。

（１）初回訪問時やサービス担当者会議等にて、利用者及び、家族の希望と、利用者の生活全般についてその状態を十分に把握する。

（２）サービスの提供にあたり、居宅サービス計画に基づいたケアプラン（介護予防短期入所生活介護計画）を立案し、事前に利用者及び、家族に説明し、同意を得る。

（３）定期的なモニタリング(評価)を実施し、より利用者のニーズに沿ったケアプランの実践に努める。

2. 機能訓練

利用者の自立を支援し、機能の維持向上を図るため、機能訓練を計画的かつ、継続的に実施する。

（１）利用者の心身状況及び生活リズムに応じて、日常生活に必要な機能を維持するためのリハビリを行う。

（２）利用者個々の生活史を考慮したレクリエーション活動を提供すると共に、経過や効果等について検証し、在宅生活や関連事業所でのケアに繋げる。

3. 健康管理

生活環境の変化による体調不良、混乱を防止するために、必要な健康管理体制を整え、適切な対応を行う。

（１）サービスの利用毎に、利用者の心身状況を確認し、本人及び家族、医療機関と連携を図り、健康管理を行う。

（２）感染症対策については、感染症マニュアルに沿って適切に対応し、予防に努め、発生時には蔓延、拡大の防止を図る。

4. 環境整備

生活場所の変化による混乱が生じる可能性があることを説明し、情報収集することにより、できる限り在宅生活に近い環境の整備を行う。また、利用に際しては、事業所での居室環境について説明を行い、同意を得る。

5. リスク管理

利用者が安全に過ごせるよう、事故予防に努め、事故発生時の適切な対応及び再発防止を行う。

（１）介護用品や備品、危険箇所の点検を定期的に行い、安全かつ快適に過ごすための介護機器の検討と環境整備を行う。

（２）利用者の情報収集を十分に行い、予測できる事故について家族と共に理解し未然に防ぐ工夫をする。

（３）ヒヤリハット活動を充実させることにより事故予防に繋げる。

（４）事故発生時は、マニュアルに沿った迅速かつ適切な対応を行い、原因を多面的に検証し、再発防止に努める。

6. 防災対策

火災をはじめ、地震、風水害等災害の発生に備え、緊急時における利用者の生命と安全を確保するため、自主防災活動及び、地域防災組織等との連携強化を図る。

（１）火災害等の発生に備えて、状況に応じて迅速かつ、適切な避難誘導が行えるよう、定期的に避難訓練等を実施する。

（２）防災設備については、緊急時に十分機能するよう、日頃から定期的に点検整備を実施する。

（３）地震及び、風水害等発生時対応マニュアルに沿って、自然災害発生時における避難、救護体制の構築を図る。

（４）地域総合防災訓練への参加及び、消防機関、地域防災組織等との連携により地域ぐるみで自主防災機能の強化を図る。

7. 職員教育

質の高いサービスを提供するために、自己研鑽に努め、資質の向上を図る。

（１）園内外で開催される各種研修・勉強会等に参加し、専門的な知識、技術を修得し、業務の適正化及び、効率化に努める。

（２）挨拶、言葉遣い、身だしなみ等、職員としての基本的なマナーを身につけると共に、職員個々のコミュニケーション能力を高め、サービスの質の向上を目指す。

8. 地域交流

地域における行事等への参加や、地区住民との交流、ボランティア等の受け入れを通じて、地域コミュニティ機能の充実を図る。

9. 地域貢献

関係機関と連携して、地域社会の中で生活していくための課題を発見し、地域における様々なニーズに柔軟に対応していく。

（1）地域行事に利用者と一緒に参加する。

（2）各関係機関、居宅介護支援センター、在宅支援センターと連携を図り、在宅生活を継続していく上で、サービスを必要としている人に対し早期に対応する。また、個々のニーズに対し、柔軟に対応する。

（3）地域住民が抱える福祉ニーズを把握し、これまでに培ってきた福祉サービスに関する専門性やノウハウを提供することで、地域福祉の充実を図る。

【重点目標】

① 夜間帯の様子など、生活全般について細かく観察することで、認知症等をはじめとする様々な生活課題に対して、ケアの検討や環境整備等に取り組み精神安定を図る。

② 利用者の心身機能に応じた活動内容（手芸・園芸・音楽・運動・喫茶等）の選択肢を増やし、内容を充実させることで各利用者のニーズに応える。また、外出・調理については利用者からの要望も多いことから、今後も計画的に実施する。

③ 地域の主催する催し物等に積極的に参加し、地域の活動に貢献をすることで、交流の推進を図り、事業所に対する理解や、コミュニティ機能の充実及び、利用者の拡大に繋げる。

④ ミニデイサービスや地域の集まりに定期的に参加し、介護に必要な知識や認知症に関する勉強会等を実施すると共に、情報交換を行い、要介護状態や認知症になっても暮らせる地域作りへの協力、連携体制の構築を図る。

⑤ 定期的に内部研修を実施することで職員のスキルアップを目指すと共に、外部研修にも積極的に参加し、多様な技術・知識を得ることで、質の高いサービス提供に繋げる。

⑥ 自然災害等、緊急時に備えて地元消防団及び、防災組織等と具体的な協力、連携体制の構築を図る。

【総合評価】

達成度(%)　　85.8%

＜評価＞

① 85%

生活全般の状態を観察し、生活課題を把握することで、個別の対応に繋がり安楽な生活に繋がった。また、事業所間での情報の共有もできた。

② 95%

園芸や工作等継続的に行うことで、意欲・自発性の向上に繋がった。調理レク・外出に関しては、利用者の希望を確認しながらの実施ができた。

③ 95%

地域の盆踊りや運動会に参加することで地域住民との交流が図れた。また、定期的に総会等に参加することで老人クラブとも交流が図れた。

④ 90%

継続的に地域で実施されているミニデイサービスへの参加ができた。交流を持つことで、新規利用者の増加に繋がった。

⑤ 80%

外部研修や園内の勉強会に参加することで、知識・技術の向上に繋がった。

⑥ 70%

災害時に地域住民や民生委員と連携しながら､円滑な避難ができるよう協力体制の構築ができた。今後は、地域との合同訓練や、消防団との連携の構築に取り組む必要がある。

令和1年度

短期入所生活介護事業所 野 中 利用実績

１．事業内容　区分: 短期入所生活介護〔単独型〕基準該当
体制: 送迎体制〔あり〕

２．開所日数　: 366 日

■ 利用定員　: 6名

■ 稼働率　: 96.9%

■ サービス期間　: 平成31年4月1日～令和2年3月31日

３．利用実績

項目＼月		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
開所日数		30	31	30	31	31	30	31	30	31	31	29	31	366
利用者数		14	17	13	14	17	18	17	14	15	12	12	15	178
介護度別利用状況	要支援			16										16
	要介護1	41	35	23	10	4	29	40	29	35	28	17	29	320
	要介護2	31	37	28	40	36	37	25	35	35	40	39	17	400
	要介護3	38	44	34	66	92	81	74	51	58	55	59	80	732
	要介護4	67	71	72	66	48	32	43	58	54	47	49	52	659
	要介護5													
	合 計	177	187	173	182	180	179	182	173	182	170	164	178	2,127
	1日平均	5.9	6.0	5.8	5.9	5.8	6.0	5.9	5.8	5.9	5.5	5.7	5.7	5.8
送迎利用実績		40	33	30	39	48	47	53	46	51	37	40	46	510
野中地区の利用者数		77	71	74	96	100	71	80	75	81	92	84	74	975
野中地区の利用者割合		44%	38%	43%	53%	56%	40%	44%	43%	45%	54%	51%	42%	46%

４．年間利用状況推移

年度＼月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合 計
平成27年度	178	178	174	179	178	173	170	162	175	168	172	156	2,063
平成28年度	164	175	178	170	178	172	168	160	164	172	160	185	2,046
平成29年度	178	180	170	168	183	177	186	176	178	173	163	177	2,109
平成30年度	183	183	180	183	178	178	185	176	186	159	167	174	2,132
令和1年度	177	187	173	182	180	179	182	173	182	170	164	178	2,127

５.事故発生の状況　（医療機関受診を伴う事故）

病院受診を伴う事故なし

事故発生状況　2019　短期入所生活介護事業所 野中

発生場所＼発生内容	受診の有無	転倒	転落	ずり落ち	衝突	誤嚥	誤薬	異食	離園	表皮剥離	利用者同士のトラブル	その他	合計
ホール	有												
	無												
居 室	有												
	無	2								1			3
食 堂	有												
	無												
トイレ	有												
	無	1											1
浴 室	有												
	無									1			1
デイルーム（娯楽室）	有												
	無						1					1	2
施設外	有												
	無												
その他	有												
	無												
小 計	有												
	無	3					1			2		1	7
合 計		3					1			2		1	7

（評価）
　前年度に比べると居室で発生する事故が減少した。環境整備や職員の対応を検討することで減少したと考えられる。今年度は介護中に起きた表皮剥離が２件発生した。今後は、介護に関する勉強会や技術の向上を図ることで、介護中の事故を防げるよう取り組んでいく必要がある。

ヒヤリハット　12件

６.苦情発生の状況

苦情発生なし

地域活動支援センター　くりのみ

【基本方針】

なんらかの障がいのある人々が、自立した日常生活または社会生活を営むことができるように、創作的活動、生産活動の機会の提供及び社会との交流の促進を図ると共に、日常生活に必要な便宜の供与を適切かつ効果的に行う。

【具体的取り組み】

1. 基礎的事業

安定した作業を提供し、働く喜びを実感できるよう支援する。また、個々の個性、可能性に応じた個別の支援をしつつ、利用者間の協調性も養う。

（1）内　　職　100 円ショップのプラスチック製品の組み立てやシール貼り
　　タオル折り、ゴム部品のバリ取り、期間限定の箱折り等
（2）自主製品　廃油せっけんの製造・販売、メダカの養殖・販売
（3）バザー　　販売品の製造、販売

2. 機能強化事業

利用者とくりのみ会年間行事計画を立案し、レクリエーションや季節の行事を体験したり、他団体の行事への参加も含めて社会参加を積極的に行うことで、日常生活の維持向上を図る。

（1）自主活動　　お花見、新年会、クリスマス会、忘年会
　　調理実習、学習会
　　映画、交流会、工場見学
　　くりのみフレンドリー祭り
（2）参加型活動　町内福祉施設周辺の草引き、清掃
　　町内福祉施設での行事への参加
　　市、他施設、病院等の行事へのバザー参加

3. 職員教育

三障がい対応の体制であるため、それぞれの障がい特性についての知識を習得し、個別に柔軟で細かなサービスを提供する。

（1）各種研修会に参加後、職員間で研修事項を共有し、専門的な知識、技術の習得に努め、利用者一人ひとりに合った支援を心掛ける。
（2）職員間で利用者の情報を共有し、統一した支援の提供に努める。
（3）定期的に事業所内勉強会（くりのみ勉強会）を開催する。

4. 家族支援

家族にとっても頼りになる施設として、家族と交流を図り、協力し合う。

（1）くりのみ利用者の家族にバザー等行事への参加を呼び掛け、くりのみとの交流を図る。

（2）家族会関係の行事、研修会に参加し親睦を深める。

（3）支援の必要な家庭については、関係機関と連携して家全体の支援を考える。

5. 地域貢献

地域住民の福祉力を高めることのできる障がい福祉の拠点として、開かれた施設を目指す。

（1）行政機関、民生委員会、介護サービス機関等の関係機関との連携を深め、地域の中の障がい者やサービスを必要とする人に、くりのみの情報を伝える。

（2）くりのみ利用者の家族から行政への要望を聞き、より良い事業所運営の在り方を考える。

（3）住民参加型のくりのみフレンドリー祭りを開催する。

（4）くりのみ勉強会の内容に応じて関係機関の参加を呼び掛け、利用者や福祉制度等の理解を深める。

【重点目標】

（生きがい支援）

① 利用者の意見を取り入れながら新商品を考え、バザー販売に活かす。

② 作業、外出行事の他に余暇活動の機会を提供する。

③ 関係機関、部署と情報を共有し生活能力に応じた支援をする。

④ 年間を通して、同居家族への家庭訪問を実施する。

（相互理解）

⑤ 月１回くりのみ勉強会の実施・生活状況等の振り返りをすることで支援内容を見直す。

⑥ 「くりのみ活動報告・意見交換会」の実施方法を再検討し、参加者から多くの意見を聞けるようにする。

【総合評価】

達成度(%)　87.5%

＜評価＞

① 100%

バザー商品については、コーヒーゼリーやホットコーヒーの販売を試みた。今年度の売上をみながら、次年度も販売する。アイスフロートの売上減についてはアイスクリームを販売し補っている。

② 85%

在支の協力を得ながらじゃがいもの収穫・販売・調理を行った。収穫は参加が難しい人もいたが、調理では役割分担しながら行うことができた。バザーの時期を終えると内職が少ない日があったが、調理の時間を取り入れた。

③ 100%

くりのみの休館日を事前に周知し、他サービスを利用できるようにした。

④ 85%

モニタリング等の必要時に家庭訪問を行い、家族からの聞き取りを行った。

⑤ 85%

事業所内の勉強会を通して利用者の状況を振り返っている。今後も実施し、職員間で利用者理解に繋げる。

⑥ 70%

山サミットの実施状況は、3 カ月に 1 度の金曜日 15 時～17 時の間で参加者が２名程。参加できていない家族より、「休日の方が参加しやすい。」という意見もあり、今後は「土曜日の 10 時～12 時」に変更して実施する。

「くりのみ活動報告・意見交換会」は、コロナウイルスの感染拡大防止のため開催することができなかった。

（１）年間行事

令和1年度		行 事 内 容	参加人数	場　所
令和1年	4月　8日	くりのみ会（花見）	11	佐礼谷：黄色い丘
	5月　1日	くりのみ会（新元号のお祝い）	10	地域活動支援センターくりのみ
	5月　11日	なかやまあったかフェスティバルバザー	10	地域活動支援センターくりのみ
	5月　18日	ふたみふれあいBBQ	10	ふたみ潮風ふれあいの館
	5月　24日	くりのみ会（草引き）	10	中山町内
	6月　1日	くりのみフレンドリー祭り	9	地域活動支援センターくりのみ
	6月　4日	きらら交流会	8	双海保健センター
	6月　8日	なかやまホタル祭り（中止）	0	中山中学校グランド
	6月　22日	むつみふれ愛まつり	8	ワークハウス睦美
	6月　28日	くりのみ会（ガラス美術館）	10	道後ガラス美術館
	7月　17日	くりのみ会（八幡浜方面）	13	八幡浜みなっと
	7月　20日	くりのみ会（中山夏祭り）	12	中山町内
	8月　3日	なかやま幸梅園盆踊り	9	なかやま幸梅園
	8月　23日	くりのみ会（そうめん流し）	9	マイントピア別子
	8月　24日	南風会バザー	4	砥部町
	9月　7日	民生委員（にこにこ食堂）とくりのみバザー	9	中山地域事務所
	9月　23日	なかやまくり祭り	13	栗の里公園
	9月　27日	くりのみ小旅行（四国カルスト）	11	四国カルスト
	10月　5日	あったかフェスティバルバザー	7	地域活動支援センターくりのみ
	10月　12日	くろだふれあい秋まつり（中止）	0	くろだ病院
	10月　19日	伊予市市民ふれあいのつどい	7	伊予市市民体育館
	10月　23日	くりのみ会（砥部動物園）	12	砥部動物園
	11月　2日	幸梅園文化祭	7	なかやま幸梅園
	11月　2日	真光園バザー	1	真光園
	11月　17日	あい・愛フェスタバザー	11	伊予市総合保健福祉センター
	11月　20日	くりのみ会（菊鑑賞）	9	東温市花きセンター
	11月　30日	精神障害者地域交流事業バザー（東温市）	8	東温市中央公民館
	12月　6日	わくわく交流会	10	松前公園体育館
	12月　7日	お楽しみ会	8	IYO夢みらい館
	12月　14日	ほほえみ会しめ縄交流会	職員のみ	地域活動支援センターくりのみ
令和2年	12月　23日	くりのみ会（忘年会）	11	キスケKIT
	1月　17日	くりのみ会（調理実習）	11	中山地域事務所
	1月　31日	くりのみ会（椿祭り）	11	椿神社
	2月　19日	勉強会（ひめかれん）	11	愛媛県視聴覚福祉センター

（２）利用実績

令和1年度	利用実人員（人）	利用延人員（人）	開所日数（日）	1日あたりの平均利用者数（人）	平成30年度	平成29年度
4月	18	194	21	9.2	11.7	12.2
5月	19	215	22	9.8	12.1	12.0
6月	17	181	20	9.1	12.4	12.1
7月	21	227	22	10.3	12.9	12.7
8月	20	218	22	9.9	11	12.2
9月	19	195	19	9.5	10.2	12.2
10月	20	199	21	10.3	9.7	11.9
11月	21	206	20	11.2	10	11.5
12月	17	224	20	11.2	10.4	12.0
1月	17	210	19	11.1	10.3	10.4
2月	17	199	18	11.1	11.3	11.5
3月	17	215	21	10.2	10.5	11.6
計	223	2,483	245	10.1	11.1	11.8

（３）年間利用日数

（人）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
平成27年度	282	281	294	306	278	264	289	269	279	235	296	308	3,381
平成28年度	244	240	266	254	256	244	249	241	240	197	218	243	2,892
平成29年度	246	239	273	245	253	246	251	235	243	235	263	277	3,006
平成30年度	233	256	261	270	241	183	214	211	198	196	214	209	2,686
令和1年度	194	215	181	227	218	195	199	206	224	210	199	215	2,483

指定相談支援事業所　　くりのみ

【基本方針】

障がい者の福祉に関する各般の問題につき、障がい者や家族等からの相談に応じ、必要な情報の提供及び助言、その他の障がい福祉サービスの利用支援等、必要な支援を行う。

また、虐待の防止及びその早期発見のための関係機関との連絡調整、その他の障がい者等の権利擁護のために必要な援助を行う。

【具体的取り組み】

1.　一般相談支援事業

利用者の日常生活全般を支援する観点から、障がい福祉サービス事業者や関係機関及び地域等と幅広く連携し、柔軟な支援を提供する。

（１）利用者が気軽に何でも相談できるような雰囲気づくりや信頼関係の構築に努め、利用者の主訴を的確に把握し、継続的支援を提供する。

（２）利用者一人ひとりに合った支援を実施するために地域ケア会議や民生委員会に出席し、関係機関と連携して地域住民に啓発活動を行う。

（３）訪問相談を継続し、サービスに繋がっていない利用者を対象に生活状況の確認を行う。

2.　特定相談支援事業

利用者が希望する自立した生活を支えるため、適切な福祉サービスが多様な事業所から、総合的かつ効果的に提供されるよう配慮して計画を立てる。

（１）支給決定前に、利用者の居宅等への訪問面接によるアセスメントを行い、計画案（モニタリング期間の提案を含む）を作成する。

（２）利用者等の同意を得て、計画案を利用者に交付する。

（３）支給決定後、事業者と連絡調整を行うと共に、サービス担当者会議の開催等により、計画案の内容の説明及び意見を求める。

（４）（３）により意見を求めた計画案について、利用者等に説明し、文書により同意を得て、計画を利用者に交付する。

（５）平成 30 年度障害福祉サービス報酬改定により平成 31 年度からモニタリング期間の見直しに伴い、家庭状況に応じて変更する。

（６）介護保険サービスを併用又は移行する人に対して、介護支援専門員がケアプランを作成するために必要な情報提供等を行う。

（７）障がい児相談支援事業を開始、児童から成人、高齢へと発達に応じて切れ目

のない支援を提供する。

3. 地域移行支援・地域定着支援事業

施設・精神科病院から地域に移行するまでの支援や、地域生活を継続していくための支援を行う。

（１）地域移行

① 地域移行支援計画を作成する。なお、作成に当たっては、利用者への面接や障がい者支援施設や精神科病院の担当者を召集した会議を開催し意見を求める。

② 利用者への面接による相談や、施設、病院からの同行による支援を概ね週１回行う。

③ 利用者の状況に応じ、障がい福祉サービス事業の体験利用、１人暮らしに向けた体験宿泊を実施する。

（２）地域定着

① 対象者ごとに、緊急時において必要となる家族、サービス事業者、医療機関等の連絡先等を記載した地域定着支援台帳を作成する。作成に当たっては、利用者に面接によるアセスメントを実施する。

② 利用者との常時の連絡体制を確保すると共に、居宅への訪問等を行い、利用者の状況を把握する。

③ 緊急時には、速やかに居宅への訪問を行い、状況を把握すると共に利用者の家族、関係機関との連絡調整、緊急一時的な滞在支援を行う。

4. 職員教育

各種研修会に積極的に参加し、知識・技術を習得することにより、職員の資質の向上に努める。

（１）意思表示の難しい利用者の主訴を把握するため、スーパービジョンの機会を取り入れ支援の質を高める。

（２）障がい特性、制度、相談支援をする上で必要な研修に積極的に参加する。

（３）他機関と連携を図るために研修会等に参加する。また、事業所で担当している困難事例の提供を行い、支援の方向性を広げる。

5. 地域貢献

地域住民に相談支援事業を広く周知し、障がいへの理解を深め、誰もが住みやすい町を目指す。

（１）地域住民が障がいについての理解を深めることができるように、啓発活動を

することによって、地域の支援力を強化させる。

（２）支援に協力が必要な場合、当事者の同意を得て民生委員等に担当者会への出席を依頼し、適切な情報を伝えることで支援者のネットワークの構築を図る。

（３）中山町内の障がい種別を問わない家族会の設立を検討する。

【重点目標】

（ネットワーク）

① 山サミット（障がいを持つ当事者の家族が集まれる場）を提供し、家族同士が話せる機会を提供し「家族支援」について考える。

② 南予方面の相談支援実施状況について情報収集を行い、今後のサービス提供地域の可能性を検討する。

③ あったカフェを通して事業の啓発を行う。

（支援の質の向上）

④ 相談員間で「ひきこもり」について事例をあげて、今後の支援方法について関係機関の意見も取り入れながら考える機会をつくる

⑤ 児童の発達と障害特性、親の心理について研修を通して理解を深め今後の支援に活かす。

【総合評価】

達成度(%)　73.0%

＜評価＞

① 85%

家族との交流は、保健センター主催の「精神障害者家族懇談会」と手をつなぐ育成会主催の「勉強会」に参加、くりのみで「山サミット」を実施している。市内にある家族会の会員は減少しているが、計画相談の利用者は増えている。

その他、平成 31 年度報酬改正によりモニタリング回数が増えたが対応できた。相談支援と送迎の兼ね合いで配車がうまくいかないことがあり、訪問時間等の調整が必要。

② 70%

南予方面については、内子町役場にくりのみのパンフレットを配布した。1 件研修会の案内があり参加したが、情報収集には至っていない。

③ 70%

あったカフェ年２回のイベントをくりのみで実施しバザー出店した。来年度の開催に繋がらなかったが、掲示物を使った広報を取り入れた。

④ 70%

心と体の健康センターでは、月に一度「ひきこもりに関する事例検討」を実施しており一度参加することができた。事例内容によって参加する。

⑤ 70%

児童の相談件数は予定よりも伸びていない。伊予市社会福祉協議会が障害児関係の勉強会を企画することがあり、関係者との情報交換を含めて参加するようにしている。

（１）一般相談

1.相談支援を利用している障害者等の人数　（人）

		実人員	身体障害	重症心身障害	知的障害	精神障害	発達障害	高次脳機能障害	その他
令和１年度	障害者	14	1	0	2	11	0	0	0
	障害児	0	0	0	0	0	0	0	0
平成30年度	障害者	24	0	0	5	19	0	0	0
	障害児	0	0	0	0	0	0	0	0
平成29年度	障害者	19	1	0	6	10	1	0	1
	障害児								
平成28年度	障害者	21	1	0	6	14	0	0	0
	障害児								
平成27年度	障害者	14	1	0	6	7	0	0	0
	障害児								

2.支援方法

	訪問	来所相談	同行	電話相談	電子メール	個別支援会議	関係機関	その他	計
令和１年度	15	9	7	78	4	3	105	16	237
平成30年度	33	4	13	69	4	2	178	16	319
平成29年度	28	11	31	52	21	2	188	16	349
平成28年度	27	6	7	43	16	12	182	19	312
平成27年度	28	18	26	69	9	4	202	8	364

3.支援内容

	福祉サービス	障害理解	健康・医療	不安解消	保育・教育	家族関係	家計・経済	生活技術	就労
令和１年度	51	11	35	15	0	1	23	141	8
平成30年度	91	31	102	21	0	15	44	86	17
平成29年度	28	25	68	10	2	10	38	171	28
平成28年度	76	28	63	57	0	13	51	71	4
平成27年度	52	13	41	17	0	2	154	98	8

	社会参加余暇	権利擁護	その他	計
令和１年度	0	3	9	297
平成30年度	2	4	10	423
平成29年度	4	2	20	406
平成28年度	5	8	15	391
平成27年度	6	12	14	417

（2）特定相談

（人）

令和1年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
計画相談	6	5	8	1	3	13	7	6	4	4	3	4	64
継続相談	7	3	5	9	9	3	6	7	10	11	11	10	91

平成30年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
計画相談	7	4	4	2	3	4	9	4	5	7	4	5	58
継続相談	6	6	8	8	7	9	6	7	3	4	3	12	79

平成29年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
計画相談	6	4	5	4	3	3	6	3	9	3	5	4	55
継続相談	4	10	6	9	13	10	9	5	6	8	8	12	100

平成28年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
計画相談	7	6	5	2	3	5	6	3	8	2	8	5	60
継続相談	5	6	8	10	9	6	6	8	5	10	6	7	86

平成27年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
計画相談	4	4	5	2	1	2	1	1	2	1	4	6	33
継続相談	5	6	6	6	10	11	5	7	4	5	8	8	81